

2025 年度 研究所事業報告書

研究所名	生存学研究所
------	--------

I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究所の実施した全ての研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどを行い、できるだけわかりやすく記述してください。

なお、2025 年度に採択を受けた研究所重点研究プログラムの詳細な実績報告は、プロジェクト毎に書式 B に記述のうえ提出してください。

人口減少・少子高齢化とグローバル化は、教育・研究に大きな変革をもたらし、本学園は「挑戦をもっと自由に(R2030)」を目指し、現代社会の多様な「生存」への対応を急務としている。生存学研究所は、2025 年度も継続して人間の「障老病異」とともに生きることを追求し、障害、老い、病い、異なる身体の状態を抱える人々の「当事者」性に焦点を当て、本学のプレゼンスを高める先端的な教育・研究実践を行った。これは、本学園の「未来を信じ、未来に生きる」精神に基づき、ダイバーシティとインクルージョンの実現に特に貢献している点である。以下に、アーカイヴィング、東アジア生存学拠点、支援テクノロジー開発、研究所叢書刊行の四つの柱となる研究ヴィジョン(重点プロジェクト)を通じた活動を報告する。

1. 生存学アーカイヴィング:

2025 年度は、①アーカイビング事業、②目録作成、③ガイドライン策定の三点について、いずれも前年度からの継続的發展を確認できた。デジタル化は通算約 6.5 万ショット、目録は約 2,500 ファイルに到達した。加えて、ヘルスケアアーカイブズの倫理的配慮に関する指針を公開し、生存学研究所における資料運用ガイドライン策定に向けた基盤を形成した。生存学研究所サイト arsvi.com に 350 回以上の更新がされ、海外からの約 2 万アクセスを含め 60 万ユーザーのアクセスがあり、国際的なアーカイブサイトであり続けている。そのほか、生存学研究所が著作権法第 37 条第 3 項に基づく視覚障害者等のための複製・公衆送信が認められる者への登録が完了した。

2. 東アジア生存学拠点形成:

グローバルシティズンシップに向けた主体的な研究教育実践として、東アジア生存学拠点を形成を進めている。本年度は、「私たち抜きに私たちのことを決めないで——声、参加、コミュニティ形成」をテーマに研究を進めた。その成果は、2025 年 10 月 25-6 日に大阪いばらきキャンパスで開催した障害学国際セミナー2025 で研究報告した。本セミナーは、本研究所が主催して、日本、韓国、台湾、中国が対面で参加するという非常に難易度が高くなってしまっていることを実現し、加えて、同時通訳を使ってアクセシビリティに配慮して研究者だけでなく実践家の参加も可能にした。

3. 支援テクノロジー開発:

ダイバーシティ社会を実現するテクノロジーの社会実装を目指して「当事者」とともにデザインの上流から関わった。2025 年度は、主に①5 月の OIC いばりつ DAY に出展、10 月の BKC ウェルカムデーに出展、②炭酸デザイン室の個展での展示、③土曜講座公開講演会での講演、④ゲーム・アクセシビリティに関する国際公開研究会を行った。広く一般市民に向け、企業と連携する機会も得た。美馬達哉による基盤 A「クローズドループ刺激による非侵襲的 Deep Brain リハビリテーションの創生」他を継続して行っている。

4. 立命館生存学研究所叢書の刊行:

臨川書店より『知は分断をこえる——生存をめぐる研究の現場』(立命館大学生存学研究所監修、川端美季・伊東香純共編)を公刊した。本書は、一時も途切れることなく研究所の web サイトに掲載されてきた「研究の現場」をまとめたもので、生存学研究センター監修『知のフロンティア』(2017)、生存学研究所監修『知と実践のブリコラージュ』(2020)の続編に当たるもの。ほかに、研究所関係者による多数の書籍や論文が国内外で刊行され、叢書刊行プログラムの今後を示した。

以上の通り、2025 年度の活動では、生存学研究所を新 MLA (Museum/Library/Archive) 構想の一部として発展させ、本研究所の知見を広く社会に還元し大学が地域社会に開かれた知の拠点であることを活かすべく取り組んできた。R2030 における衣笠キャンパスの研究活動の中核とすることを目指し、おおむね計画通り達成することができた。

Ⅱ. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2026 年 3 月 31 日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員協力研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位
研究所長	美馬達哉	先端総合学術研究科	教授
運営委員	大谷いづみ	衣笠総合研究機構	教授
	後藤基行	先端総合学術研究科	准教授
	川端美季	衣笠総合研究機構	准教授
	伊東香純	衣笠総合研究機構	准教授
	飯田豊	産業社会学部	教授
	小田巻友子	経済学部	准教授
	栗原彬	衣笠総合研究機構	研究顧問
	後藤智	経営学部	教授
	桜井啓太	産業社会学部	准教授
	桜井政成	政策科学部	教授
	鎮目真人	産業社会学部	教授
	サトウタツヤ	総合心理学部	教授
	塩見康博	理工学部	教授
	千葉雅也	先端総合学術研究科	教授
	戸谷洋志	先端総合学術研究科	准教授
	富永京子	産業社会学部	准教授
	長瀬修	衣笠総合研究機構	上席研究員
	中根成寿	産業社会学部	教授
	永浜 明子	スポーツ健康科学部	教授
	林 達雄	衣笠総合研究機構	研究顧問
	松原 洋子	先端総合学術研究科	特任教授
	村本 邦子	人間科学研究科	教授
	望月 茂徳	映像学部	教授
	安田 裕子	総合心理学部	教授
	やまだ ようこ	OIC 総合研究機構	上席研究員
	小川 さやか	先端総合学術研究科	教授
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	山岸典子	グローバル教養学部	教授
	宮脇 正晴	法学部	教授
学内の若手研究者	① 専門研究員 研究員 初任研究員	シン ジュヒョン	助教
		Bayasgalan Borgil	専門研究員
		阿久津 美紀	専門研究員
		安田 智博	研究員
		中村 雅也	専門研究員

		田中 美穂	衣笠総合研究機構	専門研究員
	② リサーチアシスタント	中井 良平	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
	③ 大学院生	キョク コウリン	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		忠岡経子	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		井川 仁美	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		田場 太基	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		森下 摩利	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		FENG Yunlong	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		高橋 初	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		種村 光太郎	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		山口 和紀	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		池谷 政直	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		大矢 雅之	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		押元 麻美	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		山本 由紀子	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		大屋 未輝	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		坂本 唯	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		清水 一輝	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		宮本 敬太	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		大木 えりか	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		坂野 久美	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		西岡 知香	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		竹村 文子	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		植木 是	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		小井戸 恵子	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		宮内 沙也加	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		鈴木 悠平	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		阿部 俊彦	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		伊波 弘幸	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		谷口 俊恵	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		木戸口 峻	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		小林 孝子	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		宇津木 三徳	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
	④ 日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)	後藤健志	衣笠総合研究機構	学振 RPD
その他の学内者 (補助研究員、非常勤講師、研究生、研修生等)		酒井 春奈	障害学生支援室	支援コーディネーター
		吉野 亶	先端総合学術研究科	授業担当講師
		村上 潔	先端総合学術研究科	非常勤講師
		駒澤 真由美	先端総合学術研究科	研究指導助手
		藤原 信行	先端総合学術研究科	非常勤講師
		密田 逸郎	産業社会学部	非常勤講師
		坂井めぐみ	産業社会学部	授業担当講師

客員協力研究員	青木 慎太郎	大阪公立大学 都市科学・防災研究センター	客員研究員
	秋葉 峻介	山梨大学大学院総合研究部医学域基礎医学系(総合医科学センター)	講師
	安積 宇宙	ニュージーランド ドナルド・ビーズリー研究所	準研究員
	HOVHANNISYAN Astghik	ロシア・アルメニア大学 上級講師、エレバン言語社会科学大学	非常勤講師
	有田 啓子	衣笠総合研究機構 生存学研究所	客員協力研究員
	有吉 玲子	衣笠総合研究機構 生存学研究所	客員協力研究員
	CHIN Angelina Yanyan	ポモナ大学(アメリカ)	教授
	Ignacio Calderón Almendros	University of Malaga(マラガ大学)	准教授
	井上 武史	特定非営利活動法人メインストリーム協会	職員
	岩田 京子	宮城学院女子大学現代ビジネス学部現代ビジネス学科	准教授
	臼井 久実子	障害者欠格条項をなくす会	事務局長
	宇都宮 みのり	愛知県立大学教育福祉学部社会福祉学科	教授
	浦田 悠	大阪大学全学教育推進機構 教育学習支援部	准教授
	大久保 豪	株式会社 BMS 横浜 代表取締役/東京医科歯科大学、東京医科大学、東京医療保健大学	非常勤講師
	太田 智加子	東京理科大学教養教育研究院葛飾キャンパス教養部	准教授
	大野 光明	滋賀県立大学 人間文化学部	准教授
	岡本 晃明	京都新聞社東京支社	編集部長
	奥山 佳子	ハワイ大学ヒロキャンパス 人文学部 日本研究科	教授
	桶河 華代	宝塚大学看護学部	准教授
	尾上 浩二	DPI 日本会議	副議長
	甲斐 更紗	国立民族学博物館	外来研究員
	柏崎 郁子	東京女子医科大学 看護学部	講師
	勝村 久司	大阪府立野崎高等学校	再任用教頭
	加藤 旭人	日本学術振興会	特別研究員 PD
	河合 翔	立命館大学衣笠総合研究機構 生存学研究所	客員協力研究員
	河口 尚子	名古屋市立大学他	非常勤講師
	川口 有美子	特定非営利活動法人 ALS/MND サポートセンターさくら会	副理事長
	姜 文姫	立命館大学	非常勤講師
	北島 加奈子	独立研究者 先端総合学術研究科	一貫制博士課程
	桐原 尚之	同志社大学	特別研究員(PD)
	窪崎 泰紀	特定非営利活動法人ゆに	理事
	倉田 研一	元 株式会社西洋フード・コンパス・グループ アリア二子玉川店勤務	

	栗川 治	同志社大学	特別研究員(PD)
	栗原 敦	MMR(新 3 種混合ワクチン)被害児を救援する会	事務局長
	黄 芳誼	台湾・東呉大学社会学部	准教授
	小林 勇人	日本福祉大学 社会福祉学部	准教授
	駒澤 真由美	立命館大学大学院 先端総合学術研究科	研究指導助手
	栄 セツコ	桃山学院大学	教授
	榊原 賢二郎	国立社会保障・人口問題研究所社会保険応用分析研究部	第三室長
	笹谷 絵里	花園大学社会福祉学部	専任講師
	貞岡 美伸	京都光華女子大学 看護福祉リハビリテーション学部 看護学科	教授
	佐藤 沙織	尾道市立大学経済情報学部	准教授
	佐藤 伸彦	立命館大学衣笠総合研究機構 生存学研究所	客員協力研究員
	佐藤 量	広島修道大学人文学部	准教授
	篠原 眞紀子	日本福祉大学	専任講師
	柴垣 登	岩手大学教育学部	教授
	志水 洋人	名古屋大学大学院医学系研究科	特任助教
	鍾 宜錚	早稲田大学社会科学部	講師
	SHIVHARE Ramdas	インド中央中等教育委員会	
	末田 邦子	愛知淑徳大学福祉貢献学部	准教授
	須坂 洋子	獨協医科大学看護学部	准教授
	鈴木 雅子	立命館大学衣笠総合研究機構 生存学研究所	客員協力研究員
	鈴木 陽子	沖縄愛楽園交流会館	学芸員
	住田 朋久	慶応義塾大学大学院社会学研究科	訪問研究員
	瀬山 紀子	埼玉大学 ダイバーシティ推進センター	准教授
	孫 美幸	文教大学国際学部	准教授
	高木 美歩	EUREKA 京都 L&T Lab. 発達支援セラピスト	
	高阪 悌雄	青森県立保健大学 保健福祉学部 社会福祉学科	教授
	高橋 慎一	特定非営利活動法人日本自立生活センター 自立支援事業所	常勤職員
	高橋 涼子	金沢大学 人間社会研究域 地域創造学系	教授
	田中 恵美子	東京家政大学人文学部	教授
	田中 多賀子	社会福祉法人なごみ福祉会 療育相談	言語聴覚士
	谷田 朋美	毎日新聞	記者
	谷藤 真琴	岩手県立大学宮古短期大学部 経営情報学科	准教授
	玉木 幸則	一般社団法人 兵庫県相談支援ネットワーク	代表理事

	丹波 博紀	大正大学 教学マネジメント推進機構学修支援センター(DAC	任期制専任講師
	津田 壮章	京都大学大学院人間・環境学研究科	教務補佐員
	鶴田 雅英	一般社団法人ここん 相談支援事務所ここん	代表
	利光 恵子	とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ「相談室」女性のからだと性の相談	相談員
	戸田 真里	京都光華女子大学健康科学部看護学科在宅看護学領域	助教
	戸田 聡一郎	東北大学大学院 文学研究科哲学専攻分野	専門研究員
	土橋 圭子	子どもの社会での学びの場 NPO Happy Smile	代表
	土肥 いつき	京都府立高校	教員
	仲尾 謙二	立命館大学衣笠総合研究機構 生存学研究所	客員協力研究員
	永田 美江子	日本大学短期大学(三島校舎)	教授
	中村 江里	広島大学大学院人間社会科学研究科	准教授
	永山 博美	独立行政法人労働者健康安全機構 神戸労災病院看護部	看護師
	西川 純司	神戸松蔭女子学院大学文学部	准教授
	野口 友康	エクセター大学 人文・芸術・社会科学部	アソシエイト
	能勢 桂介	長野保健医療大学	非常勤講師
	萩原 三義	相生鍼灸 院長 / NPO 法人オレンジカフェコモンズ 理事 / NPO 法人きょうと介護保険にかかわる会	理事
	萩原 浩史	大阪市港区障がい者基幹相談支援センター	主任相談支援専門員
	橋口 昌治	大谷大学社会学部 現代社会学科	任期制講師
	橋本 明	愛知県立大学教育福祉学部	教授
	橋本 雄太	神戸教育短期大学こども学科	特任講師
	長谷川 唯	立命館大学衣笠総合研究機構 生存学研究所	客員協力研究員
	原 昌平	相談室ばどる/ばどる行政書士事務所	代表
	番匠 健一	社会理論動態研究所	研究員
	福島 幸宏	慶應義塾大学文学部	准教授
	藤岡 毅	藤岡毅法律事務所	弁護士
	藤木 和子	聞こえないきょうだいをもつ SODA ソーダの会	弁護士
	藤原 良太	東北公益文科大学	助教
	細谷 幸子	国際医療福祉大学成田看護学部	教授
	保明 綾	マンチェスター大学	准教授
	堀智久	名寄市立大学保健福祉学部 社会福祉学科	准教授
	堀川 諭	京都産業大学外国語学部	准教授

	増田 英明	一般社団法人日本 ALS 協会	相談役
	松枝 亜希子	立命館大学衣笠総合研究機構 生存学研究所	客員協力研究員
	松岡 弘之	岡山大学学術研究院 社会文化科学学域	准教授
	松本 理沙	北陸学院大学教育学部 幼児教育学科	講師
	三島 亜紀子	同志社大学	嘱託講師
	密田 逸郎	日本社会保障研究会	事務局長
	宮崎 宏志	岡山大学教育学域	准教授
	宮原 資英	特定非営利活動法人 Japan Centre for Evidence Based Practice	社員
	村上 潔	立命館大学大学院先端総合学術研究科 / 神戸市外国語大学	非常勤講師
	安田 真之	NPO 法人ゆに	障害学生支援アドバイザー
	柳田 千尋	独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)東京山手メディカルセンター	主任医療社会事業専門員
	矢野(宗像) 裕子	京都西山短期大学	准教授
	山下 幸子	淑徳大学総合福祉学部	教授
	山田 裕一	NPO 法人ブルートレイン☆カンパニー 保育ソーシャルワーカー・障害福祉コンサルタント/NPO 法人凸凹ライフデザイン	事業部長 他
	横田 陽子	立命館大学衣笠総合研究機構 生存学研究所	客員協力研究員
	吉田 一史美	日本大学 生物資源科学部	
	吉村 夕里	武庫川女子大学大学院	非常勤講師
	頼尊 恒信	真宗大谷派聞稱寺	副住職
	李 金灯	国立民族学博物館	外来研究員
	LIN Jiun-Da	the Graduate Institute of National Development at National Taiwan University	Assistant professor
	芝田 純也	新潟福祉大学	教授
	櫻田 武	成蹊大学理工学部	准教授
	有松 玲	先端総合学術研究科	研究生
その他の学外者	張 恒豪	国立台北大学社会学部	教授
	テレジア・デゲナー	プロテスタント・ボーフム応用科学大学	教授
	呉 達明	香港大学	准教授
	安 孝淑	韓国 ALS 協会・理事(企画ディレクター)	先端総合学術研究科修了生
	青木 千帆子	筑波技術大学	特任助教
	青山 薫	神戸大学	客員研究員
	天田 城介	中央大学	教授
	有蘭 真代	龍谷大学	職員

	安藤 道人	立教大学	非常勤講師/プロジェクト研究員
	市野川 容孝	東京大学	教授
	岩永 理恵	日本女子大学	教授
	権藤 真由美	中央大学障害学生支援室	支援コーディネーター
	田島 明子	湘南医療大学	教授
	高阪 悌雄	青森県立保健大学	教授
	田中 耕一郎	北星学園大学	准教授
	田中 秀典	京都文教短期大学	特任講師
	土屋 葉	愛知大学	准教授
	天畠 大輔	中央大学	参議院議員
	廣野 俊輔	同志社大学	准教授
	深田 耕一郎	女子栄養大学	教授
	三井 さよ	法政大学	教授
	矢野 亮	長野大学	教授
	吉田 幸恵	兵庫医療大学 共通教育センター	講師
	渡辺 克典	徳島大学	准教授
研究所構成員 計 218 名 (うち学内の若手研究者 計 39 名)			

Ⅲ. 研究業績（公開項目） ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。
本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を <u>全て</u> 記載してください(2026 年 3 月 31 日時点)。また、書式 B の研究業績欄との二重記載をお願いいたします。

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	美馬達哉	『『変身』とケアの現場』	分担執筆	2026 年 3 月	松籟社	田中壮泰、西成彦、川島隆	PP. 179-194
2	美馬達哉	『未来世界を哲学する3 越境と風土・伝統の哲学』	編者(編著者)	2025 年 8 月	丸善出版	岸見太一、北川眞也、伊藤由希、西川亮	PP. 183-192
3	大谷いづみ	第13章 安楽死と尊厳死	単著	2026 年 3 月	金芳堂	伏木信次・樫則章・霜田求編、『生命倫理と医療倫理 第5版』	PP. 149～158
4	伊東香純	天田城介編『生をめぐる問い——別様な世界を生きることと可能とする社会』	単著	2026 年 3 月	中央大学出版会	伊東香純	(205-228 頁)
5	伊東香純	知は分断をこえる——生存をめぐる研究の現場	共著	2025 年 5 月	臨川書店	川端美季、伊東香純	
6	サトウタツヤ	デジタル保健室——学校からひろがるケアリング・ムーブメント	単著	2026 年 3 月	紫洲書院学校での「居場所」と保健室の意義	サトウタツヤ	114-132
7	サトウタツヤ	Collected Papers II on Trajectory Equifinality Approach	単著	2026 年 3 月	Chitose Press	Tatsuya Sato	1-180
8	サトウタツヤ	心理調査の基礎 改訂版	共編者(共編著者)	2025 年 9 月	有斐閣	サトウタツヤ、鈴木直人	1-187
9	サトウタツヤ	オートエスノグラフィー・マッピングー「私」からはじめる研究手法を知るための地図	共編者(共編著者)	2025 年 9 月	新曜社	土元哲平・桂悠介・サトウタツヤ	1-209

10	鎮目真人	『葬送的福利年(金):台湾年金改革的挑戰與解答』	分担執筆	2026 年 2 月	巨流圖書股份有限公司 「日本の公共年金制度與改革方向」	鎮目真人	237-255
11	松原洋子	「優生思想に抗うために」	単著	2025 年 9 月	藤井 克徳, 池上 洋通, 石川 満, 井上 英夫編著『「もっと生きたかった」やまゆり園事件と人権』	藤井克徳, 池上洋通, 石川満, 井上英夫編著	PP. 326~334
12	松原洋子	「〈不良な子孫〉の出生防止と人権侵害: 優生保護法の歴史から」	単著	2025 年 5 月	『産む権利／産まない権利—リプロダクティブライツの現在』花伝社	ジェンダー法政策研究所, 辻村みよ子, 糠塚, 康江, 大山, 礼子, 二宮周平編著	PP. 196~210
13	村本邦子	『戦争トラウマを語り合う』(「トラウマで壊された関係性を修復する試みが平和をつくる—大きな声の裏に隠された小さな声や弱さを聞き取る」)	分担執筆	2026 年 2 月	泉町書房	黒井秋夫(村本邦子)	198-239
14	村本邦子	『心理学からみるコロナ禍と人のこころ—新型コロナに人々はどう向き合ったか』(「第 10 章コロナ禍で浮かび上がった倫理問題—私たち一人ひとりの責任」 169-185 頁「インタビュー 2 市井の声に耳を傾ける—ワクチン接種に抗った人々へのインタビューから」) 216-230 頁)	分担執筆	2026 年 2 月	ミネルヴァ書房	青野, 秋本, 田口, 辻, 本田山(編著), 村本邦子(分担執筆)	169-185 -216-230
15	村本邦子	ジェンダーにセンシティブでありたい心理臨床家のために(「ジェンダーセンシティブ心理臨床を巡る 2 つの対話①フェミニズム、身体、土着」)	共著	2025 年 9 月	金剛出版	西井開・向井理菜ほか	27-40
16	安田裕子	隠岐でのフィールドワーク、歩み出し	単著	2026 年 3 月	質的研究と社会実装	安田裕子	(3),1-15 頁
17	安田裕子	TEM 体験型研修における設計要件の検討—参加院生の学びを深めたプロセスから(査読付)	共著	2025 年 6 月	日本教育工学会論文誌	張曉紅・田中文昭・浅瀬万里子・安田裕子・サトウタツヤ	49(2),289-302 頁
18	安田裕子	出産の語りをいかに聴くか—より深く聴き、ケアにむすぶために(特集 出産の語りを聴く—6 人の女性による「私のお産」のストーリー—)	単著	2025 年 4 月	助産雑誌	安田裕子	79(2),150-155 頁
19	井上武史	『現代ラテンアメリカ社会を知るための 47 章』	共著	2026 年 2 月	明石書店	石田智恵・林みどり編著	PP. 217~223
20	栄セツコ	精神障害のある人のヘルパー養成講座の経験から Re:Start —挑み続けていく私達の物語—	共著	2025 年 4 月	やどかり出版	石神文子・清水由香	pp.9-18 pp.78-85
21	秋葉峻介	知は分断を超える——生存をめぐる研究の現場(担当: 16 生/死をめぐる意思決定の倫理を考え直す)	分担	2025 年 4 月	臨川書店	立命館大学生存学研究 研究所監修, 川端美季・伊東香純 編	pp. 42~43
22	田中多賀子	『変身』とケアの現場	共著	2026 年 3 月	松籟社	カフカの『変身』をケア(介護や療育)の視点から読み解いた論集。筆者担当作品は「もうひとつの『変身』〈こうのとりの青い鳥〉の物語」。	p.169-176

23	土肥いつき	『子ども家庭福祉』コラム 2 LGBTQ+の子どもたち	単著	2026年2月	生活書院	垣内国光・岩田美香・ 板倉香子・井原哲人・ 宮地さつき編	pp.70-72
24	能勢桂介	△消えた日系ブラジル人 と多文化共生 日本衰退 の転回点：リーマンショッ ク△の現状・課題・将来	単著	2025年4月	悠人書院		432 ページ
25	萩原浩史	『知は分断を越える——生 存をめぐる知の現場』相談 支援の「いま」と「これか ら」について——実践的価 値と政策的課題	共著	2025年5月	臨川書房	立命館大学生存学研究 所監修、川端美季・ 伊東香純編	PP. 24～25
26	末田邦子	私の学術書・2	共著	2025年10月	春風社		PP. 243～248
27	原昌平	精神医療保健福祉キーワ ード事典 のうち精神科 病院で起きた重大事件	共著	2026年1月	合同出版		pp.150-169
28	栗川治	『障害と能力——障害教 員運動史が示す「異なる在 り方」の社会』	単著	2025年11月	生活書院		
29	栗川治	「障害教員運動史——教 育現場からの排除と包摂 をめぐる闘争の歴史を探 る」立命館大学生存学研究 所監修『知は分断をこえる ——生存をめぐる研究の 現場』	共著	2025年5月	臨川書店	川端美季・ 伊東香純編	pp. 90-91
30	桐原尚之	精神保健福祉法体制の解 体に向けて——精神障碍 者の社会運動	共著	2026/01/20	必携 精神医療保健福祉 キーワード事典——精神 医療保健福祉のグローバ ルスタンダードから精神 科医療の改革を提言！	高木俊介・下里誠二・ 竹端寛編	254-258
31	橋本雄太	吃音と学校教育——伊沢 修二の楽社社から「吃音者 宣言」までの変遷	単著	2026年2月	晃洋書房		全項
32	吉田一史美	「第8章 人工授精・代理 出産・卵子提供」『概説 生 命倫理学』	分担執筆	2025年4月	大学教育出版	三重野雄太郎・ 秋葉峻介 編	PP. 109-124
33	岩田京子	知は分断をこえる：生存を めぐる研究の現場	共著	2025年4月	臨川書店	立命館大学生存学研究 所監修、川端美季・ 伊東香純共編	PP. 12～13
34	横田陽子	「感染症サーベイランス 小史——サーベイランス はどのように定着したか」	単著	2025年	『生物学史研究』		第105号、 10-13頁。
35	Ignacio Calderón- Almendros	¿A qué responde la educación inclusiva? Relatos breves sobre el sufrimiento oculto en las escuelas [What does inclusive education address? Short stories about the hidden suffering in schools]	Co- authorship	December 2025	Editorial Octaedro	T. Rascón-Gómez	pp. 1-106 p.
36	Ignacio Calderón- Almendros	Hacia una evaluación psicopedagógica inclusive [Towards an inclusive psychoeducational assessment]	Co- authorship	December 2025	Editorial Octaedro	J. Moreno-Parra	pp. 1-176
37	Ignacio Calderón- Almendros	Educación transcultural [Transcultural education]	Co- authorship	December 2025	Editorial Síntesis	C. Ruiz-Román, J.L. González-Geraldo, - L. Motjar-Mendieta	pp. 1-198
38	有松玲	実証研究 障害者制度改革 2009-2014—公共政策形成 における当事者参画の意 義と課題—	単著	2026年3月	明石書店		

40	柳田千尋	『変身』とケアの現場の現状・課題・将来・「ザムザ家の物語にみる二人の支援者」	共著	2026年3月	松籟社	田中壮泰, 西成彦, 川島隆	PP. 149-168
41	柳田千尋	IBD 診療の極意・第4章 社会・包括的支援 求められているサポートとシステム	共著	2025年11月	メジカルビュー社	酒匂美奈子, 河口貴昭	PP.344-348
42	西川純司	〈病と戦後〉の歴史社会学: 疾病と公害をめぐる神話を解体する		2025年6月	青弓社	土屋 敦, 坂田 勝彦	27-58
43	千葉雅也	Electric	単著	2026年3月	Atelier Akatombo	MasayaChiba, trad. Jacques Lévy	1-320
44	千葉雅也	私小説：作家は真実の言葉で嘘をつく	分担執筆	2025年8月	河出文庫	千葉 雅也, 金原 ひとみ, 他	305-319:「私小説」論、あるいは、私の小説論
45	利光恵子	着床前検査と胚選別	共著	2026年3月	金芳堂、『生命倫理と医療倫理』	伏木信次・樫則章、 霜田求編	pp.66-76
46	富永京子	『なぜ社会は変わるのか：はじめての社会運動論』	単著	2025年7月	講談社 現代新書		
47	富永京子	『講座岩波社会学 政治・社会運動』	共著	2025年8月	岩波書店	山根純佳、明戸隆浩 編	

2. 論文								
No	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	美馬達哉	表象された犠牲者・加害者・障害者——『月』をよむ／みる——	単著	2026年3月	早稲田大学国際文学館ジャーナル 4		PP. 94-102	無
2	美馬達哉	生命のはじまりから考える科学・倫理・社会	共著	2026年2月	青土社、現代思想54(2)	阿久津英憲	PP. 8-20	無
3	Tatsuya Mima	Peripheral nerve stimulation synchronized with brain stimulation facilitates somatosensory function.	共著	2026年2月	Clinical Neurophysiology184	Yuki Maruyama, Sumiya Shibata, Sho Kojima, Hideaki Onishi	2111693	有
4	美馬達哉	個別化/精密医療という未来：臨床労働(clinical labor)を考える	単著	2026年1月	青土社、現代思想54(1)		PP. 18-27	無
5	Mima, T.	Am I locked-in?" Illness Trajectories, Medical Terminology, and the Experience of the Locked-in State in Japan	共著	2025年11月	Neuroethics18	Himeno, Y., Masana, L., Vidal, F.	49	有
6	美馬達哉	書評 フィリップ・アルティエール編『耐え難いもの(監獄情報グループ資料集 1)』人文書院	単著	2025年11月	週刊読書人			無
7	美馬達哉	生命倫理学と障害者差別の解消：配慮と対話の交錯	共著	2025年9月	生命倫理 / 日本生命倫理学会編集委員会編 35(1)	川端美季	PP. 4-12	無
8	美馬達哉	医療社会学とフーコー、そして精神医学批判	単著	2025年8月	立命館大学生存学研究センター9		PP. 11-15	無
9	Mima, T.	Triple Transcranial Static Magnetic Field Stimulation System ("SHIN jiba") Modulates the Neural Activity of the Lumbar Spinal Cord: A Cross-over and Single-Blind Study in Healthy Subjects	共著	2025年5月	Neuromodulation: Technology at the Neural Interface	Hoshi, H., Shibata, S., Onishi, H.		有
10	美馬達哉	経頭蓋静磁場刺激(tSMS)による神経調節のメカニズム：ホールセルパッチクランプ法を用いた大脳皮質錐体細胞の解析	共著	2025年4月	医学書院、BRAIN and NERVE 77(4)	芝田純也, 福田敦夫,	PP . 357-362	無
11	Tatsuya Mima	A pilot study on simultaneous stimulation of the primary motor cortex and supplementary motor area using	共著	2025年	Frontiers in human neuroscience19	Kazuma Yamashita, Ruido Ida,	1618758	有

		gait-synchronized rhythmic brain stimulation to improve gait variability in post-stroke hemiparetic patients.				Satoko Koganemaru, Mitsuya Horiba, Ippei Nojima, Yumie Ono, Sumiya Shibata, Takuya Hosoe, Hiromasa Tachiwa, Hiroaki Yamashita, Akihiro Itoh, Yuuki Murata, Masataka Fujita, Kaoru Kamimoto, Yoshino Ueki		
12	Tatsuya Mima,	Therapeutic Intervention for Trunk Control Impairments in Central Nervous System Disorders: A Comprehensive Review of Methods and Efficacy.	共著	2025 年	Progress in rehabilitation medicine10	Hiroaki Yamashita, Tatsuya Yamaoka, Ryota Shimomura, Sachimori Ichimura, Yuuki Murata, Akihiro Itoh, Satoko Koganemaru	20250002	有
13	大谷いづみ	特集趣旨	共著	2025 年 8 月	立命館大学生存学研究 所, 立命館生存学研究, vol.9	川端美季 (第一 著者)	PP. 33 ~34	無
14	大谷いづみ	日韓ユニバーサルツーリズムにおける移動困難者とサポーターによる実践報	共著	2025 年 8 月	立命館大学生存学研究 所, 立命館生存学研究, vol.9	安田 智博・ユ ジンギョン・高 雅郁	PP. 79 ~85	無
15	後藤 基行	医療・ヘルスケアの歴史的 ELSI の検討—超学際的な新しい資料読解の試み—	単著	2025 年 12 月	精神神経学雑誌	後藤 基行	127 巻 12 号 885- 891	有
16	Motoyuki Goto	Confronting and archiving the eugenic past in Japan	共著	2025 年 6 月	The Lancet	AyaHomei, Yu kiFunatsu, Mo toyuki Goto, YokoMatsubar a		
17	川端美季	「入浴する身体と「清潔な主体」：衛生・国民性・植民地支配の交錯」	単著	2026 年 3 月	『歴史学研究』1072 号	川端美季	11-21 頁	
18	川端美季	「生命倫理学と障害者差別の解消」	共著	2025 年 9 月	『生命倫理』第 35 巻第 1 号	川端美季・美馬 達哉	4-12 頁	
19	川端美季	「特集趣旨」	共著	2025 年 8 月	『立命館生存学研究』9 号	川端美季・大谷 いづみ	33-34 頁	
20	川端美季	「特集趣旨：生存学とシリアスゲーム」	単著	2025 年 8 月	『立命館生存学研究』9 号	川端美季	89-91 頁	
21	川端美季	「公衆浴場を必要としたのは誰か：入浴と清潔をめぐる近代史」	単著	2025 年 5 月	『生物学史研究』第105 号	川端美季	17-19 頁	
22	サトウタツ ヤ	帰ってきた心理学の縦横無尽 (3) 2025 年度前半期の文化心理学ネット ワーク、ちょっとだけその他	単著	2026 年 3 月	対人援助学会対人援助 学マガジン (62)	サトウ タツヤ	76-86	
23	サトウタツ ヤ	心理学史諸国探訪 [第 29 回] アフリ カ心理学史入門②	単著	2026 年 1 月	日本心理学会心理学ワ ールド (112)	サトウ タツヤ	2	
24	サトウタツ ヤ	TEA の知を生かした混合研究法の 実践 ―質的研究法の発展と量・質の 相補的理解を踏まえて―	単著	2025 年 12 月	日本混合研究法学会混 合研究法 4(2)	サトウ タツヤ	512- 525	
25	サトウタツ ヤ	心理学史諸国探訪 [第 28 回] アフリ カ心理学史入門①	単著	2025 年 10 月	日本心理学会心理学ワ ールド (111)	サトウ タツヤ	2	
26	サトウタツ ヤ	VR の本丸としての心理学における 質的研究の流れ	単著	2025 年 6 月	日本バーチャルリアリ ティ学会誌 30(1)	サトウ タツヤ		
27	サトウタツ ヤ	TEM 体験型研修における設計要件 の検討―参加院生の学びを深めたブ	単著	2025 年 6 月	日本教育工学会論文誌 49(2)	張曉紅・田中文 昭・浅瀬万里	289- 302	有

		ロセスから				子・安田裕子・サトウタツヤ		
28	サトウタツヤ	あるコスプレイヤーは何を目指して13 年間コスプレを続けてきたのか——永久の未完成という発達過程をAuto-TEM で描く——	共著	2025 年 5 月	TEA と質的探究学会 TEA と質的探究 3(1)	福山未智, サトウタツヤ	1-22	有
29	サトウタツヤ	心理学史諸国探訪 [第 26 回] トルコ ②	単著	2025 年 4 月	日本心理学会心理学ワールド (109)	サトウタツヤ	2	
30	小田巻友子	希望の文学としての子どもの本の力ー童話館ぶつくらぶに込められた思いー	単著	2025 年 12 月	くらしと協同	小田巻友子	(54),55-62 頁	無
31	小田巻友子	日本で暮らす外国人とその家族の雇用・教育・ケア・食の問題	単著	2025 年 6 月	くらしと協同	小田巻友子	(52),29 頁	無
32	小田巻友子	多文化化する高齢者ケアの実像ー違いを認め合い共に生きるためにー	単著	2025 年 6 月	くらしと協同	小田巻友子	(52),48-57 頁	無
33	桜井啓太	書評と紹介 岩田正美著『私たちの社会福祉は可能か: 社会福祉をイチから考え直してみる』	単著	2026 年 2 月	大原社会問題研究所雑誌 = The journal of Ohara Institute for Social Research / 法政大学大原社会問題研究所編 (808),63-67 頁	桜井 啓太	(808),63-67 頁	無
34	桜井啓太	記念講演 子育て罰を受ける国: 「子どもの貧困」を乗り越えるためにー特集 第 41 回全国保問研 夏季セミナー(「父母と共につくる保育内容」)報告: わかりたい父母のこと 伝えたい子どものこと いっしょにつくろう! 私たちの保育	単著	2025 年 12 月	季刊保育問題研究 / 全国保育問題研究協議会編集委員会 編 (336),76-89 頁	桜井 啓太	(336),76-89 頁	無
35	桜井啓太	生活保護における扶養照会の時系列動向と地域間格差ー2013~2022 年度の全国データ	単著	2025 年 12 月	社会保障研究 10(3),314-329 頁	投稿 桜井 啓太	10(3),314-329 頁	有
36	桜井啓太	2013 年生活保護基準引き下げ処分の最高裁違法判決による 2018 年以降の生活扶助基準への影響に関する検証	単著	2025 年 8 月	賃金と社会保障 = Wage & social security (1879・1880),97-108 頁	桜井 啓太	97-108 頁	無
37	桜井啓太	生活保護行政における職員体制: 福祉事務所の役割とは	単著	2025 年 7 月	都市問題 116(7),67-77 頁	桜井 啓太	116(7),67-77 頁	無
38	桜井啓太	網の変容-2024 年社会福祉の回顧と展望	単著	2025 年 4 月	社会福祉研究 = Social welfare studies / 鉄道弘済会社会福祉部 編 (152),60-69 頁	桜井 啓太	(152),60-69 頁	無
39	桜井政成	サービスラーニング型授業での再帰性実践の可能性	共著	2025 年 5 月	福祉社会学研究 22	桜井政成, 加野佑弥	167-187	有
40	鎮目真人	2025 年年金改革をめぐる非難回避と手柄争いー基礎年金給付の「底上げ」政策をめぐるって	単著	2026 年 3 月	医療福祉政策研究 9(1)	鎮目真人	79-92	無
41	Nagase Osamu	"Human Rights Bulletin: Supreme Court Ruling on Forced Sterilizations under Japan's Eugenics Protection Law (1948 - 1996) and Its Background,"	単著	2025 年 6 月	International Journal of Disability and Social Justice, 5(1)	Nagase Osamu	pp.126-132.	
42	松原洋子	「日本優生学史研究の先駆け: 鈴木善次先生を偲ぶ」	単著	2026 年 3 月	日本科学史学会生物学史分科会、『生物学史研究』、第 106 号	なし	PP. 100~108	無
43	Yoko Matasubara	Confronting and archiving the eugenic past in Japan	共著	2025 年 6 月	Elsevier, The Lancet, Volume 406, Issue 10500	Aya Homei , Yuki Funatsu・ Motoyuki, Goto	PP. 224~225	無
44	松原洋子	「『〈不良な子孫〉の出生防止』と人権侵害: 優生保護法の教訓」	単著	2025 年	兵庫県人権啓発協会研究推進委員会、『研究紀要』、第 27 輯	なし	PP. 2~5	無

45	村本邦子	死者と共同体—東日本大震災後を生きる	単著	2026 年 3 月	東洋英和女子学院死生 学年報 2026	村本邦子	75-93	無
46	村本邦子	周辺からの記憶 50 2023 年度シン ポジウム 震災 を語り継ぐ—いのちのバトンを手渡 すために	単著	2026 年 3 月	対人援助学マガジン 16(4)	村本邦子	107- 133	無
47	村本邦子	集合記憶と集合トラウマ：周辺から の記憶—被災と復興の証人となる	単著	2026 年 1 月	遠見書房N:ナラティブ とケア (17)	村本邦子	80-85	無
48	村本邦子	周辺からの記憶 49 2023 年 東日 本・家族応援プロジェクト+	単著	2025 年 12 月	対人援助学マガジン 16(3)	村本邦子	113- 130	無
49	村本邦子	周辺からの記憶 48 東日本・家族応 援プロジェクト in ハワイ	単著	2025 年 9 月	対人援助学マガジン 16(2)	村本邦子	124- 135	無
50	村本邦子	周辺からの記憶 47 2020 年度シン ポジウム	単著	2025 年 6 月	対人援助学マガジン 16(1)	村本邦子	112- 136	無
51	望月茂徳	共創的な防災体験を導く車椅子型メ ディアの開発と実践	共著	2026 年 3 月	立命館映像学 19	望月茂徳, 中濱 佑太, 門前美 樹, 檜皮一彦, 児玉依美奈	27-40	有
52	富永京子	「社会運動を「立ち止まって見る」 力—社会運動のバイスタンダーと しての社会運動論」『現代思想』	単著	2025 年 7 月	『現代思想』 53(9)	富永京子	53(9), pp.175- 183.	
53	Kyoko Tominaga	Kyoko Tominaga, 2025, "Evolving Autonomy Through Repair: Trial- and-Error Spatial Practices in a Japanese Squatted Space" <i>Space and Culture</i> (onlinefirst: https://doi.org/ 10.1177/12063312251386610 : ※ オープンアクセス)	単著	2025 年		Kyoko Tominaga		無
54	千葉雅也	ガチャガチャの、ガチャ——浦川大 志とデジタルの世紀	単著	2026 年 1 月	福岡市美術館浦川大志 個展「スプリット ア イラ ンド」カタログ	千葉 雅也	82-85	
55	千葉雅也	価値づけの埒外にある住所不定—— 「不気味でないもの」についての再 論	単著	2025 年 11 月	Dachuban Design Publishing, ori.studio 東恩納 裕一個展「家族的類似 性」カタログ	千葉 雅也		
56	千葉雅也	フラットになることが前衛だった頃 (松本卓也『斜め論』書評)	単著	2025 年 8 月	web ちくま	千葉 雅也		
57	千葉雅也	〔対談〕作家にとって「黒歴史」と は何か：『作家の黒歴史 デビュー前 の日記たち』刊行記念対談	共著	2025 年 6 月	群像 80(6)	千葉 雅也, 宮内 悠介	236- 246	
58	千葉雅也	〔対談〕芸術以後、哲学以後：101 年 目の横断	共著	2025 年 4 月	文藝 64(2)	千葉 雅也, 福尾 匠	277- 287	
59	戸谷洋志	小特集 「私」たちのアンサンブル： 哲学的アイデンティティ論における メタバースの含意	単著	2026 年 3 月	日本バーチャルリアリ ティ学会誌 = Journal of the Virtual Reality Society of Japan / 日 本バーチャルリアリ ティ学会 編	戸谷 洋志	31 巻 1 号 44-46	
60	戸谷洋志	「ありのまま」でいるための老い： ヨナスとアーレントの対話—特集 この国で、老いて生きる	単著	2026 年 3 月	世界	戸谷 洋志	1003 号 169- 176	
61	戸谷洋志	制作的な修復：『人間の条件』にお ける労働概念の—解釈—総特集 ハ ンナ・アーレント：生誕 120 年	単著	2026 年 2 月	現代思想	戸谷 洋志	54 巻 3 号 171- 181	
62	戸谷洋志	ルッキズムにおける疎外：外見至 上主義をめぐる哲学からの一考察	単著	2025 年 8 月	Voice	戸谷 洋志	572 号 212- 220	
63	戸谷洋志	出生をめぐる倫理について：親ガ チャ・自己責任・ケア	単著	2025 年 7 月	時報市町村教委 / 全 国市町村教育委員会連 合会 編	戸谷 洋志	317 号 16-18	

64	井上武史	障害者の自立生活運動とフェミニストたちの変革	共著	2025 年 10 月	ラテンアメリカ時報 No.1452 2025 年秋号	土方陽美	PP. 36 ～39	
65	宇都宮みのり	坂た祢（ばん・たね）の社会事業とその歴史的意義—社会事業形成期における坂文種報徳会の設立過程に焦点を当てて—	単著	2025 年 10 月	愛知県立大学, 社会福祉研究, 27 号		PP. 1-12	無
66	栄セツコ	ヒューマンライブラリーの多元的な対話空間における語りの生成とその効果	単著	2026 年 3 月	桃山学院大学社会学部 論集, 59 巻 2 号		PP.187-215	無
67	栄セツコ	ヒューマンライブラリーの対話の意義	単著	2025 年 12 月	桃山学院大学総合研究所紀要, 51 巻 2 号		PP. 19 ～35	無
68	永田美江子	サザンホスピタリティとジェンダーについての一考察	単著	2026 年 3 月	『国際関係学部研究年報』第 46 集		PP. 39 ～46	有
69	柴垣登	特別支援学級をめぐる諸問題についての考察	単著	2026 年 2 月	関係先のみ配布のため、一般には非公開		全 34 頁	無
70	秋葉峻介	日本の病院は医療の方針決定に患者の関係者をどう位置づけているか——全国病院質問紙調査	共著	2026 年 3 月	日本臨床倫理学会, 臨床倫理, 14 号	竹下啓, 角田ますみ, 戸沢智也, 箕岡真子, 青墳信之, 稲葉一人, 岩路かをり, 片山賀波子, 河原直人, 清水幸裕, 杉谷篤, 鈴木聡, スミス美保子, 寺田整司, 野口善令, 平嶋竜太郎, 藤澤大介, 藤島一郎, 藤永裕之, 三上容司, 光本保英, 宮崎真一郎, 森山学, 山田陽, 若山朋代	pp. 30 ～51	有
71	秋葉峻介	代理意思決定者をめぐる課題——「医療・ケアにおける代理意思決定者に関する提言」のためのワーキンググループでの議論から	共著	2026 年 3 月	日本臨床倫理学会, 臨床倫理, 14 号	戸沢智也, 竹下啓, 角田ますみ, 箕岡真子, 青墳信之, 稲葉一人, 岩路かをり, 片山賀波子, 河原直人, 清水幸裕, 杉谷篤, 鈴木聡, スミス美保子, 寺田整司, 野口善令, 平嶋竜太郎, 藤澤大介, 藤島一郎, 藤永裕之, 三上容司, 光本保英, 宮崎真一郎, 森山学, 山田陽, 若山朋代	pp. 62 ～76	有
72	秋葉峻介	患者にとっての「最善」に向けた医療者の物語能力の発揮と承認構造についての批判的検討——承認不可能とされた「物語」を中心とした意思決定支援をめぐる	単著	2026 年 3 月	日本臨床死生学会, 臨床死生学, 30 巻 1 号		pp. 78 ～86	有
73	秋葉峻介	「物語る主体」としての患者と「人生の物語り」——善き生の構想／自己の生のための「中庸」の実践	単著	2026 年 3 月	関東医学哲学・倫理学会, 医療と倫理, 15 号		pp. 3～13	有
74	秋葉峻介	ACP における「自律」と「家族等」——それぞれの「自律」、あるいは「善い」関係（性）をめぐる	単著	2026 年 2 月	日本老年精神医学会, 老年精神医学雑誌, 37 巻 2 号		pp. 141 ～147	無

75	秋葉峻介	「家族等」による意思決定支援はいかなる意味で「ケア」なのか—M.メイヤロフのケア論における「補充関係にある他者」の観点から	単著	2025 年 12 月	南山大学社会倫理研究所, 社会と倫理, 40 号		pp. 249 ～262	有
76	Hiroko Susaka	A qualitative study on nursing support for patients with hereditary neuromuscular disorders and their families in Japan.	共著	2025 年 9 月	TheOpen Nursing Journal,19, e18744346420155.	Sumiyoshi,T, Shirako, J.,& Ishida, M		有
77	瀬山紀子	大学を拠点とした多様性の視点に立つ地域防災・減災の取り組み 埼玉大学の事例から	単著	2026 年 3 月	九州大学男女共同参画推進室、ポリモルフィア (11)		PP.80 —84	無
78	瀬山紀子	明らかにされてきた被災時におけるジェンダー格差	単著	2025 年 11 月	OASIS オアシス(東京都港区・男女平等情報誌) (87)		PP. 1 — 4	無
79	瀬山紀子	障害学の展開に学び、障害学を広げていくために	単著	2025 年	障害学研究 / 障害学研究編集委員会 編 (22) 198-204		Pp. 198 —204	無
80	瀬山紀子	日本における公務非正規をめぐる現状と課題 公務非正規女性全国ネットワークの活動を通して	単著	2025 年 10 月	韓国労働政策院、国際労働ブリーフ (韓国語) 25(5)		PP. 41 ～47	無
81	田中多賀子	「高度成長時代に幼児期失聴したH氏のライフヒストリー (前編)	共著	2026 年 3 月	大和大学白鳳短期大学部紀要第 20 号			
82	土肥いつき	感情資本を携えて教師はどのように児童生徒に臨んでいるか —教室におけるコードの交差—	共著	2026 年 2 月	『教職キャリア高度化センター教育実践研究紀要』 8	榊原禎宏, 松浦康太, 森脇正博, 西村府子	pp. 20- 29	有
83	土肥いつき	トランスジェンダーの合唱における困難 —どの場に誰といるのか	単著	2025 年 12 月	『音楽教育実践ジャーナル』 23		pp.44- 49	招待
84	藤岡毅	「松戸市ALS介護保障訴訟」千葉地裁判決報告	単著	2025 年 11 月 29 日	第 10 回日本障害法学会研究大会・国士舘大学世田谷キャンパス			
85	藤岡毅	日本の障害社会支援法制の特徴と課題	単著	2025 年 11 月	生活書院・日本障害法学会編・講座障害法第 1 巻	河野正輝他	129 ～ 150 頁	無
86	藤岡毅	長期引きこもりの原告を「自立生活を営んでいる」と評価して棄却した国の主張を一蹴し、障害基礎年金(障害認定日請求)を認めた令和 6 年 12 月 3 日東京地裁判決の意義	単著	2025 年 6 月	賃金と社会保障2025年 6 月下旬号		39 ～ 47 頁	無
87	萩原浩史	相談支援と効率性	単著	2025 年 7 月	第 5 次『精神医療』第 18 号		PP. 61 ～67	無
88	津田壮章	自衛隊マンガにおける専守防衛と「戦死」表象——かわぐちかいじ原作『空母いぶき』を題材に		2026 年 3 月	メディア研究		108 巻 141・ 159	有
89	番匠健一	農業労働者派米事業とアルゼンチン移住—北海道出身花卉栽培農家・安原汪の家族史からみたトランスパシフィックな移動	単著	2026 年 3 月	同志社アメリカ研究,62 号		PP. 63- 86	なし
90	末田邦子	優生保護法における民生委員の活動	単著	2026 年 3 月	愛知淑徳大学福祉貢献学部論集第 16 号		PP. 1 ～12	有
91	奥山佳子	Japanese Religion in Film	単著	2026 年 3 月	Routledge Companion to Religion and Film		p.287- 306	無
92	高阪悌雄	なぜ福祉縮減下で重度訪問介護が成立したのか—支援費・介護保険統合推進下の非難回避と公共的相互性—	単著	2025 年 12 月	大原社会問題研究所雑誌(806)		PP. 62 ～75	有
93	原昌平	精神科病院の不祥事は、なぜ後を絶たないのか？	単著	2026 年 1 月	精神医療 (第 5 次) ,第 20 号		pp.84- 91	無
94	宮原資英	百寿者が語る人生に関する見解と経験：メタ・エスノグラフィーによる系統的レビュー	共著	2026 年 1 月	Oxford University Press, The Gerontologist, 66 巻	イザベル・ムエビス, テッサ・マッデン, 今野理恵	オンライ ン発行雑 誌のため 、頁数な し	有
95	宮原資英	「介入効果」を超えて：発達性協調運動障害のある子どもの家庭におけ	共著	2025 年 8 月	Current Developmental	クレア・グリーン, ルース・カ	オンラ イン発	有

		る日常動作練習の普遍的な価値			Disorders Reports, 12 巻, 20 号	ットフィールド	行雑誌 のため、 頁数なし	
96	塩見康博	Effects of Price on Transport Equity: New Evidence from Long-Distance Travel in Vietnam (査読付)	共著	2025 年	Transportation Research Record 2679(11),pp.590-605	Viet Hung, K., Thi Kim Ngoc, P., Minh Ngoc, A., Shiomi, Y., Nishiuchi, H., and Faizan Ul Haq, M.	pp.590- 605	有
97	塩見康博	Adapting to new mobility conditions: Evidence from a Japanese survey on the substitution of in-person mobility with online services for daily necessities (査読付)	共著	2026 年	Travel Behaviour and Society 43(101221)	Tomohiro Yakura, An Minh Ngoc, and Yasuhiro Shiomi		有
98	Huang, Fang-Yi (黄 芳誼)	Gender pension gaps in Taiwan: The blend of Beveridgean approach in the Bismarckian model	単著	2026 年 (採択 済)	Journal of Asian Public Policy (SSCI Q1)			有
99	Ignacio Calderón- Almendros	Inclusive Education: Maps, Borders and Pathways to Success	Co- authorsh ip	June 2025	Teoría de la Educación. Revista Interuniversitaria, vol. 37, n. 2	Mel Ainscow	pp. 57- 76	Y es
100	Ignacio Calderón- Almendros	New cartographies of inclusive education through narrative and action research	Co- authorsh ip	December 2025	International Journal of Action Research, vol. 21, n. 2	T. Rascón- Gómez, L. Mojtar- Mendieta	pp.118- 137	Y es
101	Ignacio Calderón- Almendros	Narratives Committed to Inclusive Education from the Students, Voices. Inequalities, Resistance, and Collective Action	Co- authorsh ip	December 2025	Revista latinoamericana de educación inclusiva, vol. 19 n. 2	T. Rascón- Gómez	PP. 17- 23	Y es
102	有松玲	障害者差別解消法の合理的配慮は障 害者差別を「解消」できるのか：法 成立十年後の現状と課題	単著	2026 年 3 月	解放社会学研究 39 号		PP . 100 ～ 123	有
103	Yukihiro Fukusima	Conditions for Human Intervention in Library-Oriented Hybrid Bibliographic Identification	共著	2025 年 9 月	2025 Pacific Neighborhood Consortium Annual Conference and Joint Meetings (PNC)		29-34	
104	仲尾謙二	アクセシビリティと法律——民営に よる鉄道やバスの運行とさらなる方 向性と模索のために	単著	2025 年 8 月	立命館大学生存学研究 所, 立命館生存学研究, vol.9		PP. 35 ～50	無
105	丹波博紀	水俣病闘争と情念		2026 年 3 月	思想史研究 / 思想史 思想論研究会		33 号 260- 278	
106	丹波博紀	「滝沢哲学」という「わからなさ」 への定位:「人間の尊厳」をめぐる		2026 年 2 月	思想のひろば (NPO 法 人滝沢克己協会)		33(NP O7) 126- 141	有
107	志水洋人	AI・ロボティクス・デジタル技術分 野における学際的研究デザインの可 能性: 社会学と工学の知の循環	共著	2025 年 9 月	第 33 回インテリジェ ント・システム・シン ポジウム研究会資料	志水洋人, 岡島 正太郎, 山野遼 平, 下田真吾		
108	志水洋人	「インフラストラクチャー」の視点 から探る人間と AI・ロボットの「共 生」	単著	2025 年 5 月	2025 年度人工知能学 会全国大会論集			
109	西川純司	雑誌『療養生活』にみる療養住宅と 換気の実践	単著	2025 年 5 月	生物学史研究		105 号 20-25	
110	千葉雅也	ガチャガチャの、ガチャ——浦川大 志とデジタルの世紀	単著	2026 年 1 月	福岡市美術館浦川大志 個展「スプリット ア イラ		82-85	

					ンド」カタログ			
111	千葉雅也	価値づけの埒外にある住所不定—— 「不気味でないもの」についての再 論	単著	2025 年 11 月	Dachuban Design Publishing, ori.studio 東恩納 裕一個展「家族的類似 性」カタログ			
112	千葉雅也	フラットになることが前衛だった頃 (松本卓也『斜め論』書評)	単著	2025 年 8 月	web ちくま			
113	千葉雅也	「対談」作家にとって「黒歴史」と は何か：『作家の黒歴史 デビュー前 の日記たち』刊行記念対談	共著	2025 年 6 月	群像 80(6)	千葉 雅也, 宮内 悠介	236- 246	
114	千葉雅也	「対談」芸術以後、哲学以後：101 年 目の横断	共著	2025 年 4 月	文藝 64(2)	千葉 雅也, 福尾 匠	277- 287	
115	OTA, Chikako	A New Approach to Support Self- regulated English Learning for Visually Impaired University Students through “Content- focused Accessible E-learning Material”: Based on Student- centered Feedback	単著	2025 年 4 月	東北大学リポジトリ			有
116	大久保豪	『三国志』(陳寿, 裴松之注) 蜀書杜 微伝における「聾」の記述 その 2	単著	2025 年 7 月	聾啞史会報		83 巻 1-3	
117	柏崎郁子	非医療としての「介護」誕生前夜— —1998 年「福祉のターミナルケア」 論争とは何であったのか	単著	2025 年 9 月	社会保険旬報		2976 号 16-22	
118	柏崎郁子	「むだな延命」は存在するのか—— 大事なのは医学的妥当性と適切性の 問題として考えることだ	単著	2025 年 9 月	月刊公明		237 号 60-65	
119	Toshimitsu Keiko	The Historical Background of Japan's Eugenics Protection Law and the Struggle of Its Victims	単著	2026 年 3 月	Institute of Ars Vivendi, Ars Vivendi Journal Special Issue (No.18.)			無

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	Tatsuya Mima	COVID-19 and the border.” Sci-Tech Workshop	2026 年 2 月	Sci-Tech Workshop	
2	美馬達哉	脳神経科学と社会：ニュー ロダイバーシティを例として	2026 年 2 月	2025 年度第 9 期 THE TEAM	
3	美馬達哉	クローズドループ刺激によ る歩行機能の再建	2026 年 1 月	先駆的リハビリテーション実践支援セン ターFD 研修会	
4	美馬達哉	教育講演 29「静磁場による ヒト脳機能の変化—基礎か ら臨床まで—」	2025 年 11 月	第 55 回日本臨床神経生理学会学術大 会	
5	Tatsuya MIMA	Gait Reconstruction using Closed-loop tES	2025 年 11 月	XI International School for Scientists: Active and Passive Methods of Brain Research	
6	美馬達哉	『生存学』ってなに？	2025 年 10 月	立命館大学土曜講座公開講演会「生き て存るを学ぶ：「生きること」を問い続け る生存学研究所のこれまでとこれから」	
7	Tatsuya Mima	Lecture on “Institute of Ars Vivendi - Overview” HK+ Institute of Integrated Medical Humanities	2025 年 9 月	Lecture at Kyung Hee University	
8	美馬達哉	『臨床と生政治』から尊厳へ	2025 年 9 月	尊厳学の確立 B05 班研究会	
9	美馬達哉	脳に対する静磁場刺激の 神経ダイナミクス	2025 年 8 月	生理研研究会「インタラクションとレジリ エンスの神経ダイナミクス」	
10	美馬達哉	新しい非侵襲的脳刺激法： 静磁場によるヒト脳機能の モジュレーション	2025 年 6 月	脳の可塑性の神経科学	
11	大谷いづみ	インクルーシブな選挙と 「わかりやすさの罠」(閉	2026 年 3 月 15 日	インクルーシブな選挙と民主主義を 考える——堀川論『知的障害者と「わ	

		会の挨拶)		かりやすい選挙』合評会、立命館大学朱雀キャンパス	
12	大谷いづみ	障害当事者の医学研究参画はいかなる社会を目指すのか： 障害当事者の研究への参画（指定発言）	2026 年 3 月 7 日	第 11 回研究倫理を語る会、東京コンファレンスセンター・品川	座長：武藤香織 報告：熊谷晋一郎・植村 要・山田 悠平
13	大谷いづみ	いのちのこと、生きることを問い続ける一生を支える対話	2026 年 2 月 22 日	特別公開対談、立命館大学朱雀キャンパス（ハイブリッド）	島蘭進
14	大谷いづみ	混迷の時代に生命倫理を教えるということー生命倫理教育の現在地	2026 年 2 月 9 日	東京都高等学校「倫理」・「公共」研究会、第 3 回研究例会、東京都立白鷗高等学校附属中学校	
15	OTANI Izumi,	Current State of Research on <i>Ich klage an</i> (I Accuse) in Japan（ポスター報告）	2025 年 10 月	2025 East Asia Disability Studies Forum (EDEF)、OIC	
16	大谷いづみ	もっと自由に動ける社会へ——車いすユーザーとともに考えるキャンパス	2025 年 10 月 4 日	立命館土曜講座 10 月公開講演会「生存学ってなに？」立命館大学衣笠キャンパス、	川端美季
17	大谷いづみ	「アクセシビリティ研究は新たなフェーズに入る（開会の挨拶）」	2025 年 10 月 3 日	国際公開研究会 ゲームアクセシビリティの現在と未来、立命館大学衣笠キャンパス、ハイブリッド開催	
18	大谷いづみ	医学研究における＜当事者参画＞を歴史に再配置する	2025 年 9 月	障害学会第 22 回大会、女子栄養大学坂戸キャンパス	
19	桜井政成	インタビュー調査での「共謀関係」による研究者への影響とその対処：質的研究における意図せぬセラピー的効果と研究者ケアの課題	2025 年 11 月	日本社会学会第 98 回大会	桜井政成
20	桜井政成	質的研究における意図せぬセラピー的効果：発生要因と研究上の配慮の検討	2025 年 5 月	第 76 回関西社会学会大会	桜井政成
21	サトウタツヤ	ブライム刺激に文章を用いた感情誤帰属手続きの有効性の検討ージェンダーステレオタイプを題材としてー	2025 年 10 月	日本パーソナリティ心理学会第 34 回大会	◎辻絢加, 中田友貴, サトウタツヤ
22	サトウタツヤ	血液型性格関連説による少数派に対する偏見や差別の検討	2025 年 9 月	日本心理学会第 89 回大会	◎辻絢加, 中田友貴, サトウタツヤ
23	サトウタツヤ	タイトル 複線径路等至性アプローチ (Trajectory Equifinality Approach: TEA) —応用編	2025 年 9 月	日本心理学会第 89 回大会	サトウタツヤ・安田裕子
24	サトウタツヤ	タイトル 複線径路等至性アプローチ (Trajectory Equifinality Approach: TEA) —基礎編	2025 年 9 月	日本心理学会第 89 回大会	安田裕子・サトウタツヤ
25	サトウタツヤ	血液型性格関連説による少数派に対する偏見や差別	2025 年 9 月	日本心理学会第 89 回大会	辻絢加・中田友貴・サトウタツヤ
26	松原洋子	『「不良な子孫」の出生防止と人権侵害——優生保護法の歴史から』	2026 年 3 月	日本精神衛生会 メンタルヘルスの集い（第 40 回日本精神保健会議）	なし
27	松原洋子	「倫理的・法的・社会的問題（ELSI）としての強制不妊—日本の優生保護法史の検討」	2025 年 10 月	日本社会福祉学会第 73 回秋季大会	なし
28	村本邦子	Positionality as Boundary-Spanning Practice : From Clinical Work to “the	2026 年 2 月	International Exchange Event - Exploring Community Psychology –	Kuniko Muramoto

		Power of the Land”			
29	村本邦子	援助？いえ、好奇心ですー釜ヶ崎のココローム/釜ヶ崎芸術大学の日々人生劇場	2025 年 10 月	対人援助学会第 17 回年次大会	上田假奈代、山口洋典、村本邦子
30	村本邦子	戦争・被爆・災害の記憶を架橋するー集合的トラウマに触れる、多様な実践とまなざし	2025 年 10 月	日本質的心理学会第 22 回大会	村本邦子（指定討論）
31	村本邦子	ABR で「土地の力」を描き出すー映像とその制作プロセスの探求ー	2025 年 10 月	日本質的心理学会第 22 回大会	村本邦子・安斎聡子・伊藤哲司・小木貢・河野暁子・ 藪海升
32	村本邦子	科学者・実践家・擁護者モデルの形成：日本の臨床心理学の社会的役割とは何か？ 臨床心理士とアドボカシーートラウマ支援に関わるなかでー	2025 年 10 月	日本心理臨床学会第 44 回大会	村本邦子
33	村本邦子	新型コロナワクチン被害をめぐってー社会に見えにくい隠蔽された被害への心理支援と課題その 2 コメント	2025 年 10 月	日本心理臨床学会第 44 回大会	村本邦子
34	村本邦子	原子力災害とコミュニティー双葉のコミュニティはどうなったか	2025 年 9 月	日本コミュニティ心理学会第 28 回大会	村本邦子
35	村本邦子	土着的視点に基づく脱植民地主義心理学の可能性を拓くー東北からプエルトリコへー	2025 年 9 月	日本コミュニティ心理学会第 28 回大会	村本邦子
36	村本邦子	災厄を生き抜くコレクティブな「土地の力」ー脱植民主義化と知の協働的創造	2025 年 6 月	日本文化人類学会第 59 回研究大会	村本邦子
37	望月茂徳	非対称インタフェースによるインクルーシブな共創体験の実装と評価	2026 年 3 月	第 30 回 一般社団法人情報処理学会シンポジウム INTERACTION 2026	中濱佑太, 望月茂徳, 大島登志一
38	望月茂徳	Visualizing the Immune Mechanisms: Interactive Storytelling for Pediatric Allergy Engagement（査読有）	2025 年 12 月	SIGGRAPH Asia 2025	Miki Monzen, Shigenori Mochizuki, Toshikazu Ohshima,
39	望月茂徳	アレルギー疾患と舌下免疫療法に対する子どもの理解を支援する体験型モバイルコンテンツの開発	2025 年 9 月	第 30 回日本バーチャルリアリティ学会大会	門前美樹, 望月茂徳
40	望月茂徳	インクルーシブな体験を促す複数人参加型インスタレーションの制作	2025 年 9 月	第 30 回日本バーチャルリアリティ学会大会	中濱佑太, 望月茂徳, 大島 登志一
41	安田裕子	安定型×不安型カップルの関係維持プロセスの分析ー3組の事例を通じた複線経路・等至性モデリングによる分析	2026 年 3 月	日本発達心理学会第 37 回大会(福岡国際会議場)	Yiyuan WANG・ 矢藤優子・安田裕子
42	安田裕子	TEA のいろはーTEM の基本を学ぼう	2026 年 3 月	第 2 回タイ国日本語教育国際シンポジウムーUnlock Your Potential! 可能性を开花しよう(TPA29 (バンコク、スクンビット 29))	安田裕子
43	安田裕子	当該研究の TEA による分析手法についてのコンサルテーション	2026 年 1 月	慶應義塾大学看護医療学部地域看護学分野、慶應義塾大学信濃町キャンパス	

44	安田裕子	隠岐でのフィールドワークことはじめ	2025 年 11 月	立命館大学ものづくり質的研究センター第 29 回研究会(オンライン開催)	
45	安田裕子	親からのガスライティングを経験し立ち直るプロセスへの探求—TEA を用いて	2025 年 10 月	日本質的心理学会第 22 回大会(広島大学東広島キャンパス)	単独共同区分:共同 KONG MINGXI・安田裕子
46	安田裕子	日本国内企業で長期就業するムスリムの葛藤—複線径路等至性アプローチ (TEA) による分析	2025 年 10 月	日本質的心理学会第 22 回大会(広島大学東広島キャンパス)	単独共同区分:共同 小山多三代・安田裕子
47	安田裕子	文化の中で揺れる〈私〉—ヤーン・ヴァルシナーの文化心理学に基づく「矛盾」の質的探究	2025 年 10 月	日本質的心理学会第 22 回大会(広島大学東広島キャンパス)	番田清美・市川章子・宮下太陽・土元哲平・安田裕子
48	安田裕子	ベルクソンの時間論と TEA—分岐点に焦点をあてた理論的展開	2025 年 10 月	日本質的心理学会第 22 回大会(広島大学東広島キャンパス)	単独共同区分:共同 宮下太陽・安田裕子・平井靖史
49	安田裕子	シンポジウム 4: 子どものいないカップルへの対応(不妊治療をやめる選択とその次に見えてくること)	2025 年 10 月	第 28 回日本 IVF 学会学術集会(ホテルコレクティブ(那覇市))	くどうみやこ・小泉智恵・安田裕子・阿部正子・徳永義光
50	安田裕子	複線径路等至性アプローチ (Trajectory Equifinality Approach: TEA) —応用編	2025 年 9 月	日本心理学会第 89 回大会(東北学院大学五橋キャンパス(オンデマンド))	単独共同区分:共同 サウトタツヤ・安田裕子
51	安田裕子	複線径路等至性アプローチ (Trajectory Equifinality Approach: TEA) —基礎編	2025 年 9 月	日本心理学会第 89 回大会(東北学院大学五橋キャンパス)	単独共同区分:共同 安田裕子・サウトタツヤ
52	安田裕子	複線径路等至性アプローチの理論的枠組みと分析手法	2025 年 8 月	慶應義塾大学看護医療学部地域看護学分野、慶應義塾大学信濃町キャンパス	
53	安田裕子	研究方法を学ぶ 複線径路等至性アプローチ(講演会)と研究交流会	2025 年 8 月	沖縄県立看護大学研修会、沖縄県立看護大学	
54	安田裕子	The Process of Maintaining Romantic Relationships in Avoidant × Avoidant Attachment Pairings: Analysis Based on Trajectory Equifinality Modeling (TEM)	2025 年 8 月	the 79th Annual Conference of the Korean Psychological Association (KPA)(Kintex Exhibition Hall 2, Goyang-si Gyeonggi-do)	単独共同区分:共同 Wang, Y. , Yato, Y. , & Yasuda Y.
55	安田裕子	From unintended consequences to strategic adaptation: A TEM analysis of Honda's U.S. market entry	2025 年 7 月	41st EGOS(European Group for Organizational Studies) Colloquium(Alba Graduate Business School, The American College of Greece, Athens)	単独共同区分:共同 Kosuge, R. , Inamizu, N. , & Yasuda Y.
56	安田裕子	講習会 TEA のいろは—TEM の基礎を学ぼう	2025 年 5 月	TEA と質的探究学会 第 4 回大会(人間環境大学松山道後キャンパス)	単独共同区分:単独 安田裕子
57	安田裕子	招待講演 TEA を用いた教育臨床における葛藤の可視化	2025 年 5 月	TEA と質的探究学会 第 4 回大会(人間環境大学松山道後キャンパス(対面&オンライン))	単独共同区分:共同 川上康則・三田地真実・安田裕子
58	安田裕子	大規模言語モデルを活用した複線径路等至性モデリングのための図生成システムの開発	2025 年 5 月	TEA と質的探究学会 第 4 回大会(人間環境大学松山道後キャンパス)	単独共同区分:共同 ◎遠藤純音, 長谷川翔一, 中田友貴, 杉山滉平, 谷口彰, 上川多恵子, 安田裕子, 谷口忠大
59	安田裕子	大会実行委員企画シンポジウム キャリアと記号—	2025 年 5 月	TEA と質的探究学会 第 4 回大会(人間環境大学松山道後キ	単独共同区分:共同 市川章子・宮下太陽・石田百合子・小山

		非可逆的時間の中で径路を描く意味		キャンパス（対面&オンライン）	多三代・柁木史子・小澤伊久美・ウォーカー泉・安田裕子
60	安田裕子	外国人留学生の内的キャリアとキャリア展望—自己分析ワークを用いた文化心理学的考察	2025 年 5 月	TEA と質的探究学会 第 4 回大会(人間環境大学松山道後キャンパス（対面&オンライン）)	単独共同区分:単独 上川多恵子（波多野多恵子）・安田裕子・サトウタツヤ
61	安田裕子	不安定な愛着スタイルを持つ日本人の恋愛維持プロセス—複線経路・等至性モデリング (TEM) による分析	2025 年 5 月	TEA と質的探究学会 第 4 回大会(人間環境大学松山道後キャンパス)	単独共同区分:共同 WANG Yiyuan・矢藤優子・安田裕子
62	安田裕子	コメントセッション	2025 年 5 月	TEA と質的探究学会 第 4 回大会(人間環境大学松山道後キャンパス（対面&オンライン）)	単独共同区分:共同 安田裕子
63	井上武史	「フェミニストたちの変革の中の障害者の自立生活運動」	2025 年 10 月	障害学国際セミナー 2025 口頭報告セッション(4): 将来に向けた国際協力	https://www.arsvi.com/a/20251025-26.htm#2.2
64	臼井久実子	今ある欠格条項について	2026 年 2 月 20 日	「障害者」をとりまく法制度のバリア—欠格条項 最高裁も大法廷で審理—オンライン開催	
65	栄セツコ	ヒューマンライブラリーにおける「本」のエンパワメントと継続的支援の課題	2025 年 10 月	障害学国際セミナー（立命館大学）	関久美子
66	永田美江子	三島の発酵ツーリズムとフードツーリズム	2025 年 10 月	発酵ツーリズム研究会、ZOOM にて実施	尾家健生、マリア・ヨトヴァ他
67	柴垣 登	市町村間の特別支援学級対象率の差異とその要因について	2025 年 9 月	日本特殊教育学会第 63 回大会	
68	秋葉峻介	関係（性）と承認—だれが、だれと、だれ／なにを承認するのか（学会企画シンポジウム：自己決定するのは別の仕方では—生命倫理学の前提を組み替える—）	2025 年 11 月	第 37 回日本生命倫理学会年次大会、岩手保健医療大学	
69	秋葉峻介	なぜいま「別の仕方」を考えるのか？—立ち止まって／振り返って／展望してみる	2025 年 9 月	オンラインシンポジウム「人生の最終段階における意思決定主体／支援再考—「物語り」とは別の仕方では？」、オンライン開催	
70	秋葉峻介	患者主体の医療・ケアにおける「主体性」再考—意向の尊重と医学的妥当性・適切性の相反はいかに「解消」し得るのか	2025 年 9 月	第 44 回日本医学哲学・倫理学会年次大会、神奈川大学みなとみらいキャンパス	
71	秋葉峻介	自己を作品化する実践としての共同意思決定？—フィクションとパレーシア、あるいはそのはざままで	2025 年 8 月	立命館大学大学院先端総合学術研究科 院生プロジェクト生命論研究会 公開研究会、立命館大学大阪梅田キャンパス	
72	秋葉峻介	自ら死にゆくことが「最善」であるとはどういうことか？ — 人生の物語りを自ら閉じることをめぐる自由・主体・関係（性）	2025 年 5 月	第 30 回日本臨床死生学会年次大会、かでの 2・7	
73	瀬山紀子	担い手の専門性及び働き方から考える男女共同参画センターの課題	2025 年 6 月	日本女性学会 2025 年大会	
74	青木慎太郎	地方都市における視覚障害者の日常的な外出手段に関する考察	2025 年 11 月	第 72 回土木計画学研究発表会・秋大会（企画提案型）	
75	青木慎太郎	視覚障害者の就労状況別に見た外出・在宅活動	2025 年 9 月	第 28 回日本福祉のまちづくり学会全国大会	
76	倉田研一	戦前における女髪結の養成について—女髪結の近代化と地位向上は成し遂	2025 年 10 月 5 日	日本職業教育学会第 6 回大会	

		げられたのかー			
77	村上潔	「女性史のアーカイヴィングとフェミニズム実践の展開——その関連構造をつくる営み」	2026 年 3 月	〈女性史研究の現在 [いま] を問う会 (立命館女性史研究会)〉／立命館大学衣笠キャンパス	
78	村上潔	「大学図書館はいかにしてジンカルチャーのエートスを保全しうるか——限界を認識し可能性を模索する」	2025 年 11 月	《ZINE TALK 03》／京都精華大学情報館	
79	長谷川唯	Sustaining Life Through Speech as a Tool	2025 年 12 月	36th International Symposium on ALS/MND (国際学会)、Loews Coronado Bay Resort in San Diego, USA.	
80	長谷川唯	「ALS 患者に人工呼吸器をつけないという選択肢を提示することをめぐる法的・倫理的問題」	2025 年 11 月	第 37 回日本生命倫理学会年次大会、盛岡市民文化センター	
81	長谷川唯	「医療は誰のためのものか」——地域生活における医療的ケアの再定位と意思決定支援の再構築	2025 年 11 月	第 30 回日本難病看護学会学術集会、大津市民会館	
82	長谷川唯	日本の身体拘束廃止に必要な視点——海外の権利擁護アプローチを参考に	2025 年 10 月	第 68 回日本病院・地域精神医学会帯広大会、とかちプラザ	
83	長谷川唯	話せる今、話さない選択——ALS における意志伝達と生の継続戦略	2025 年 9 月	障害学会第 22 回大会、女子栄養大学坂戸キャンパス	
84	土肥いつき	トランスジェンダー生徒の困難と性別移行をめぐる実践	2026 年 3 月	日本 GI 学会第 27 回研究大会、カクイックス交流センター (鹿児島)	米沢泉美・勝又栄政・三橋順子
85	土肥いつき	トランスジェンダー生徒の困難をつくりだす学校と性別移行	2025 年 10 月	臨床心理学会第 15 回研究大会、京都テルサ	
86	土肥いつき	人権をどのように伝えるか	2025 年 10 月	教育心理学会第 67 回総会、アクトシティ浜松	栗田季佳・鮫島輝美・三浦綾希子・吉田寿夫
87	萩原浩史	なぜ大阪市の地域活動支援センター I 型は 9 ヶ所なのか?	2025 年 8 月	第 24 回日本精神保健福祉士学会学術集会、西日本総合展示場・新館・AIM	
88	飯田豊	「障害」をめぐるメディア研究の展開	2025 年 6 月	日本メディア学会 2025 春季大会 立命館大学衣笠キャンパス	塙幸枝、樋口麻里、柴田邦臣、田中瑛、美馬達哉、藤嶋陽子
89	尾上浩二	政策決定への参画～本質的な、古くて新しい問題	2025 年 10 月	障害学国際セミナー 2025 立命館大学大阪いばらきキャンパス	田中恵美子、Kim, Kyounggran、Huan-Wen, CHEN、Yi HUANG
90	尾上浩二	障害者総合情報ネットワーク (BEGIN) 資料の寄贈経緯と意義	2025 年 6 月	トークセッション「生存学の天窓」第 3 回 立命館大学衣笠キャンパス 創思館 (対面・オンライン併催)	なし
91	末田邦子	優生保護法における民生委員の活動	2025 年 10 月	日本社会福祉学会 第 73 回大会	
92	末田邦子	戦前日本における精神衛生相談の成立	2025 年 6 月	日本精神保健福祉学会 第 13 回大会	
93	奥山佳子	Graduate school lecture: Japanese mythology lecture series No.3: “The Underworld and Other Mythological Analysis: Case Studies of <i>Golden Kamuy</i> and Your Name.”	2026 年 3 月 25 日	Jawaharlal Nehru University (JNU), Centre for Japanese Studies, Delhi, India	無
94	奥山佳子	Graduate school lecture: Japanese mythology lecture series No.2: “Monkey Kings and Mythic Heroes”	2026 年 3 月 20 日	Jawaharlal Nehru University (JNU), Centre for Japanese Studies, Delhi, India	無
95	奥山佳子	Graduate school lecture: “Modern Adaptations of <i>Ginga Tetsudo no Yoru</i> ”	2026 年 3 月 17 日	Jawaharlal Nehru University (JNU), Centre for Japanese Studies, Delhi, India	無

96	奥山佳子	Seminar Keynote Speech: “Superhero Folklore As a Bridge in Indo-Japan Cultural Exchange”	2026 年 3 月 12 日	Banaras Hindu University (BHS), Department of Foreign Languages, Varanasi, India	無
97	奥山佳子	Graduate school lecture: “Christian Persecution in Southern Japan: Fieldwork”	2026 年 3 月 2 日	Jawaharlal Nehru University (JNU), Centre for Japanese Studies, Delhi, India	無
98	奥山佳子	Graduate school lecture: “Manga Translation”	2026 年 2 月 26 日	Jawaharlal Nehru University (JNU), Centre for Japanese Studies, Delhi, India	無
99	奥山佳子	Graduate school lecture: Japanese mythology lecture series No.1: “Introduction to <i>Reading Japanese Mythology through Semiotics</i> ”	2026 年 2 月 18 日	Jawaharlal Nehru University (JNU), Centre for Japanese Studies, Delhi, India	無
100	奥山佳子	Workshop: “Engaging Language Learners Through Digital Storytelling”	2026 年 2 月 6 日	International Conference on Language Learning and Memory Studies at SSN College of Engineering, Chennai, India	無
101	奥山佳子	Conference keynote speech: “Storytelling & AI in Language Teaching”	2026 年 2 月 5 日	International Conference on Language Learning and Memory Studies at SSN College of Engineering, Chennai, India	参加者や個人発表者数が多く記入不可
102	栗川治	すべての人のための図書館——新潟県立図書館長兼盲学校長・山中樵による公立図書館における障害者サービスの開始	2025 年 5 月	社会事業史学会 第 53 回大会	栗川治
103	桐原 尚之	障害者ピアサポート研修の実施状況と制度的課題の全国調査	2025 年 10 月	日本精神障害者リハビリテーション学会 第 32 回さつぽろ大会	一木 崇弘, 小笠原 啓人, 彼谷 哲志, 桐原 尚之, 榮 セツコ, 中田 健士, 矢部滋也, 山口創生, 三宅美智, 宮本有紀, 岩崎香
104	橋口昌治	ユニオンによる集団的労使関係の形成－UNION ひごろ・なにわユニオンの A 分会の事例	2025 年 10 月	第 37 回日本労働社会学会 中央大学多摩キャンパス	
105	宮原資英	百寿者の見解と経験: 長寿人生に関するメタ・エスノグラフィー	2025 年 12 月	ニュージーランド老年学会年次大会 －Ageing Together (共に老いる)	イザベル・ムエビス, テッサ・マッデン, 今野理恵
106	岩田京子	障害女性の自立生活からみる移動アクセシビリティ保障の運動	2025 年 10 月	障害学国際セミナー2025	川端美季
107	Huang, Fang-Yi (黄芳誼)	Inequality, Political Trust, and Democratic Resilience in Public Attitudes toward Artificial Intelligence	2026 年 3 月 2 日	International Symposium on Social Responses to Crisis and Change: Building Resilient Societies, National Taiwan University, Taipei, Taiwan	Lin, Jiun-Da (林竣達)
108	Huang, Fang-Yi (黄芳誼)	Demographic Change, Digitalisation, and the Climate Crisis: Social Welfare in East Asia	2026 年 1 月 14 日	Triple Transitions and Social Policy in East Asia, Yonsei University, Seoul, South Korea	
109	Astghik Hovhannisyan	Armenian Merchants in Tachibana Sotō's <i>Yōka: Yūuzenika monogatari</i> (1950)	2026 年 3 月	AAS 2026 Annual Conference, Vancouver, Canada	N/A
110	Astghik Hovhannisyan	Discussing Birth Control and Contraception in Eugenic Magazines in Modern Japan	2025 年 6 月	ICHST 2025, Dunedin, New Zealand	N/A
111	Astghik Hovhannisyan	Eugenic Protection Law, Hysterectomies, Women	2025 年 4 月	Disability in Japan Symposium, Monash University, Australia	N/A

		with CP			
112	Ignacio Calderón-Almendros	A Youth Participatory Action Research Project for inclusive education	October 2025	World Educational Research Association (WERA) Focal Meeting 2025, Joao Pessoa, Brasil	L. Mojtar-Mendieta, T. Rascón-Gómez
113	Ignacio Calderón-Almendros	Citizen research to promote a social movement for inclusive education	September 2025	British Educational Research Association (BERA) Conference 2025, Brighton, UK.	
114	Ignacio Calderón-Almendros	Emerging Narratives, Activism, and the Struggle for the Right to Inclusive Education.	June 2025	Fourth International Symposium on Inclusive Education Development at Central China Normal University, Wuhan, China	
115	有松玲	障害等級制度と障害認定ー医学モデルから社会モデルへの変容の可能性ー	2026年3月	関西社会福祉学会・年次大会、花園大学	
116	有松玲	障害者制度改革の当事者参画への知的障害者の参画ーなぜ、知的障害者の政策提言は実現されなかったのかー	2025年10月	日本社会福祉学会第73回秋季大会(同志社大学今出川校舎)	
117	有松玲	Reform of the Disability System and stakeholder participation: Consideration for making multiple discrimination against women with disabilities a policy issue	2025年10月	第15回障害学国際研究セミナー 立命館大学	
118	有松玲	障がい者制度改革と障害者運動	2025年9月	障害学会第22回大会、女子栄養大学	
119	有松玲	障害基礎年金と障害者の所得保障政策ー障害者制度改革期の議論を中心にー	2025年9月	日本解放社会学会第41回大会、立命館大学	
120	柳田千尋	地域の困難ケースへのソーシャルワーク支援ーMSW 業務指針に地域支援として明記する方法と意義ー	2025年7月	日本病院学会 第75回大会 出島メッセ長崎	
121	Toshimitsu Keiko	The Historical Background of Japan's Eugenics Protection Law and the Struggle of Its Victims	2025年10月	障害学国際セミナー、立命館大学	
122	利光恵子	日本における優生保護法をめぐる歴史的経緯と被害者らの闘い	2025年5月	世界人権都市フォーラム 2025 (WHRCF) 障害者セッション、韓国光州	
123	利光恵子	優生保護法問題をめぐって	2025年5月	第19回ハンセン病市民学会、熊本	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	優生学史研究と社会正義:強制不妊問題の補償をめぐる	キャンパスプラザ京都	2026年1月	70名	科研費(基盤研究S)「デジタル・アーカイブを活用した総合的な優生政策史研究」、日本科学史学会生物學史分科会、立命館大学生存学研究所 ※松原洋子
2	「障害者」をとりまく法制度のバリアー欠格条項 最高裁も大法廷で審理ー	オンライン	2026年2月20日	140名	NPO法人DPI日本会議・障害者欠格条項をなくす会・障害と人権全国弁護士ネット・聴覚障害をもつ医療従事者の会 ※臼井久実子
3	日本特殊教育学会第63回大会自主シンポジウム「知的障害のある児童生徒の学習特性が生きる教育」	つくば国際会議場	2025年9月	50名	弘前大学・明治学院大学教員等 ※柴垣 登

4	日本特殊教育学会第63回大会自主シンポジウム「各教科等を『合わせた指導』の今日的な意義を考える」	つくば国際会議場	2025年9月	60名	ノートルダム清心女子大学・植草学園大学教員等 ※柴垣 登
5	オンラインシンポジウム「人生の最終段階における意思決定主体／支援再考―「物語り」とは別の仕方で？」 2025年9月28日開催（主催）	オンライン開催	2025年9月	45名	※秋葉峻介
6	Disability in Japan Symposium (Co-chaired with Dr. Alison Darby at Monash Univ.)	Malborne, Australia	2025年4月	50-60	Monash University, Australia, Co-Organizer, ※奥山佳子
7	Masterclass: “Disability Research in Japan” (followed after the Symposium)	Malborne, Australia	2025年4月	20	Monash University, Graduate School, Australia ※奥山佳子
8	36th International Congress of the Latin American Society of Social Pedagogy: ‘Education and Social Change’	University of Malaga, Spain	November 2025	180 people	University of Málaga, Latin American Society of Social Pedagogy
9	1st Ibero-American Congress on Inclusive Education as a Social Movement	Asunción Port Cultural Centre, Asuncion, Paraguay	April 2026	800 people	ION Social Movement, Paraguay; ‘Quererla es Crearla’ Social Movement, Spain; University of Malaga, Spain

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	後藤 基行	近代日本における精神医療・政策の従事者―優生保護法下における優生手術への精神科医の関与（ヒトとモノからみる公衆衛生史 SEASON2・6）	公衆衛生	2025 年 12 月
2	後藤 基行	近代日本における精神医療・政策の従事者―戦後期における精神衛生行政（ヒトとモノからみる公衆衛生史 SEASON2・05）	公衆衛生	2025 年 11 月
3	後藤 基行	近代日本における精神医療・政策の従事者―戦前期における精神病者、精神病患者、看護人、衛生警察（ヒトとモノからみる公衆衛生史 SEASON2・04）	公衆衛生	2025 年 10 月
4	後藤 基行	求められる医療機関作成記録の調査と保存 ―優生手術の総合的な実態解明と新たな被害者の発見のために―	すべての人の社会	2025 年 6 月
5	後藤 基行	〈病と戦後〉の歴史社会学 疾病と公害をめぐる神話を解体する	青弓社	2025 年 6 月
6	伊東香純	精神医療普及運動における精神障害当事者――グローバルメンタルヘルスの運動に注目して	第22回障害学会大会（女子栄養大学）	2025 年 9 月
7	伊東香純	低開発地域における精神障害者組織の資源動員――エチオピアの事例から	日本NPO学会第27回研究大会（関西学院大学）	2025 年 6 月
8	川端美季	「スイスとドイツにおけるハームリダクション」	アルコール・薬物依存の政策をめぐる歴史・治療に関する京都会議	2025 年 12 月
9	川端美季・大谷いづみ	「もっと自由に動ける社会へ 一車いすユーザーとともに考えるキャンパス」	立命館土曜講座公開講演会	2025 年 10 月
10	桜井 啓太	生活保護申請率の動向と地域間格差の分析	社会政策学会 第151回（2025年度秋季）大会（関西学院大学）	2025 年 10 月
11	桜井 啓太	The "Punitive Turn" in Anti-Poverty Policies in Japan.	Social Policy Association and East Asian Social Policy Research Network - Joint Annual Conference 2025(York University)	2025 年 7 月
12	サトウ タツヤ	「知能検査」は子どもを伸ばすためにどう活用すべき？	東洋経済オンライン	2026 年 3 月
13	サトウ タツヤ	複線径路等至性アプローチの基礎	愛知県立大学大学院特別講演	2026 年 3 月
14	サトウ タツヤ	TEA（複線径路等至性アプローチ）ーオフィスにおける人生径路と課題解決を考えるためにー	第26回日本オフィス学会大会	2025 年 9 月
15	松原洋子	「優生政策とリプロダクティブ・ジャスティス」	立命館土曜講座	2026 年 1 月 17 日
16	松原洋子	「〈不良な子孫〉の出生防止と人権侵害―優生保護法の歴史から」	公益財団法人 人権教育啓発推進センター 人権に関する国家公務員研修会・旧優生保護法関連	2025 年 10 月 3 日 ・ 2025 年 12 月 26 日

17	望月茂徳	展覧会 ぐるぐるまわってみる『車椅子 DJ はじまりの美術館 Ver.』	はじまりの美術館（福島県耶麻郡猪苗代町新町4873）	2025年 4月～2025年 7月
18	戸谷,洋志	丁寧な暮らしの哲学(9)	群像（81巻、4号、440-445）東京：講談社	2026年 3月
19	戸谷,洋志	アテンションと責任：世代間倫理をめぐるスティグレールとヨナスの比較	ワークショップ『バルナール・スティグレールの哲学』をめぐる	2026年 3月
20	戸谷,洋志	丁寧な暮らしの哲学(8)	群像（81巻、3号、452-457）東京：講談社	2026年 2月
21	戸谷,洋志	ヤスパース『哲学入門』：主役は、あなただ	NHK 出版	2026年 2月
22	戸谷,洋志	丁寧な暮らしの哲学(7)	群像（81巻、1号、362-367）東京：講談社	2026年 1月
23	戸谷,洋志	アーレント『人間の条件』：なぜ働かなきゃいけないの？	中央公論新社	2026年 1月
24	戸谷,洋志	丁寧な暮らしの哲学(6)	群像（80巻、12号、416-421）東京：講談社	2025年 12月
25	戸谷,洋志	SNS における論破のコンテンツ化とその影響	分断化する社会の中で対話は可能か——ポスト・ソーシャルメディア時代の社会構築	2025年 12月
26	戸谷,洋志	別冊 NHK100 分 de 名著 集中講義 三大哲学書：カント『純粋理性批判』ヘーゲル『精神現象学』ハイデガー『存在と時間』（教養・文化シリーズ）	NHK 出版	2025年 12月
27	戸谷,洋志	丁寧な暮らしの哲学(5)	群像（80巻、11号、394-399）東京：講談社	2025年 11月
28	戸谷,洋志	書評 SNS に潜む構造『置き配的』福尾匠著	産経新聞	2025年 11月
29	戸谷,洋志	13 歳からの概念思考	大和書房	2025年 11月
30	戸谷,洋志	丁寧な暮らしの哲学(4)—創刊 80 周年カウントダウン号。	群像（80巻、10号、406-411）東京：講談社	2025年 10月
31	戸谷,洋志	書評『未来への負債：世代間倫理の哲学』	週刊読書人	2025年 10月
32	戸谷,洋志	生きづらさって何だろう研究所 哲学編	伊丹市 生きづらさって何だろう研究所	2025年 10月
33	戸谷,洋志	当たり前を問い直す—哲学の視点から眺める世界	桐光学園 2025 年度 大学訪問授業	2025年 10月
34	戸谷,洋志	人工知能による社会的包摂の倫理：スマートインクルージョン構想を手がかりに	2025 年度哲学若手研究者フォーラム研究集会	2025年 10月
35	戸谷,洋志	丁寧な暮らしの哲学(3)	群像（80巻、9号、452-457）東京：講談社	2025年 9月
36	戸谷,洋志	汎用人工知能の有用性について：アーレントの奴隷論を手がかりに	応用哲学会 第 17 回年次研究大会	2025年 9月
37	戸谷,洋志	丁寧な暮らしの哲学(2)	群像（80巻、8号、384-390）東京：講談社	2025年 8月
38	戸谷,洋志	味噌汁における技術と自然：土井善晴の料理思想の技術哲学的射程	2025 年度 ASLE-Japan/文学・環境学会 全国大会	2025年 8月
39	戸谷,洋志	丁寧な暮らしの哲学—批評総特集 「論」の遠近法 2025	群像（80巻、7号、63-71）東京：講談社	2025年 7月
40	戸谷,洋志	詭弁と論破 対立を生み出す仕組みを哲学する（朝日新書）	朝日新聞出版	2025年 4月
41	富永京子	「ハウジング・ムーブメントとしてのシェルター・コミュニティスペースの研究：空間形成による自治が「安全」と「共生」にもたらす影響」	第 98 回日本社会学会大会，東京	2025年 11月
42	Kyoko Tominaga	"Creating Autonomy: Everyday Reproduction and the Micropolitics of Space in the Shelter and Social Center in Japan" 2025 UTokyo LAINAC Research Workshop	Kyoto	2025年 9月
43	Kyoko Tominaga	"Rethinking Protest Camps and Squats:Improvisation and Autonomy in Japan's Hida-Takayama Mountainous Area",10th EUGEO Congress 2025: Geographies of a Changing Europe	Vienna	2025年 9月
44	Kyoko Tominaga	"The Emergence of Unintentional Social Movement: Architect's camp in Hida-Takayama, Japan" ISA RC50 Interim Conference 2025: Human Rights in Tourism	Tama	2025年 6月

45	Kyoko Tominaga	"Weapons of the precarious: self-employed small business activists in Japan" Reclaiming Power Conference: Bridging Social Movements and Industrial Relations in Labour Mobilisation	Firenze	2025 年 5 月
46	大友昌子・宇都宮みのり	(研究ノート) 戦後復興と古橋会の公益事業・社会事業	古橋懐古館だより, 18, 6-8	2025 年 4 月
47	臼井久実子	障害者欠格条項調査 2025 年版 (障害者欠格条項をなくす会事務局)	「障害者欠格条項をなくす会」ウェブサイト上で公開。リンク https://www.dpi-japan.org/friend/restrict/shiryo/data/index.html 調査結果を引用した報道記事が、2026 年 2 月 19 日付で東京新聞社会面に「なお残る法の差別実質的『欠格条項』増え続け」として掲載された	2025 年 5 月～8 月
48	永田美江子	接遇講演会	浄土真宗本願寺派築地本願寺	2026 年 2 月 26 日
49	永田美江子	浄土真宗本願寺派新入職員研修	浄土真宗本願寺宗務所	2025 年 4 月 2 日
50	河口尚子・坂井めぐみ・利光恵子・瀬山紀子	障害を理由とした不妊手術・中絶等の被害一聞き取り調査報告集 第 1 巻	調査報告書・「デジタル・アーカイブを活用した総合的な優生政策史研究」発行	2021 年 4 月～現在
51	村上潔	「[報告資料] 葛藤を抱えつつ、つながりをつくる——都市空間におけるフェミニズムと DIY の可能性」(ゲスト講義: ジェンダー論講座《「ジェンダーとわたしと」——今、見えなくされている社会の話を》(全 3 回) 第 3 回: 2026 年 3 月 28 日: 〈京都市男女共同参画センター ウィングス京都〉/オンライン)	arsvi.com: 立命館大学生存学研究所, (https://www.arsvi.com/2020/20260328mk.htm)	2026 年 3 月 28 日
52	村上潔	「セーフスペース・ポリシーのテンプレート——作成: 村上潔 (1)」	arsvi.com: 立命館大学生存学研究所, (https://www.arsvi.com/2020/20260315mk.htm)	2026 年 3 月 15 日
53	村上潔	「[報告資料] 女性史のアーカイヴィングとフェミニズム実践の展開——その連関構造をつくる営み」(ゲスト講義: 女性史研究の現在 [いま] を問う会 (立命館女性史研究会) /2026 年 3 月 6 日/立命館大学衣笠キャンパス)	arsvi.com: 立命館大学生存学研究所, (https://www.arsvi.com/2020/20260306mk.htm)	2026 年 3 月 6 日
54	村上潔	「[報告資料] 大学図書館はいかにしてジンカルチャーのエートを保全しうるか——限界を認識し可能性を模索する【選書リスト】」	arsvi.com: 立命館大学生存学研究所, 2025 年 11 月 29 日, (https://www.arsvi.com/2020/20251129mk-bl.htm)	2025 年 11 月 29 日
55	村上潔	「[報告資料] 大学図書館はいかにしてジンカルチャーのエートを保全しうるか——限界を認識し可能性を模索する」(ゲストトーク: 《ZINE TALK 03》2025 年 11 月 29 日/京都精華大学情報館)	arsvi.com: 立命館大学生存学研究所, (https://www.arsvi.com/2020/20251129mk.htm)	2025 年 11 月 29 日
56	村上潔	「ラテンアメリカ・フェミニズム関連情報リスト」	arsvi.com: 立命館大学生存学研究所, (https://www.arsvi.com/2020/20251005mk.htm)	2025 年 10 月 5 日
57	村上潔	Disabled People Against Cuts (DPAC), 2025, "Safeguarding Information", Disabled People Against Cuts (DPAC), July 31, 2025, (https://dpac.uk.net/2025/07/safeguarding-information/). =2025, 村上潔訳, 「安全確保に関する情報」	arsvi.com: 立命館大学生存学研究所, (https://www.arsvi.com/2020/20250801mk.htm)	2025 年 8 月 1 日
58	村上潔	Feminist Library, 2025, "For Five Decades, the Feminist Library Has Been a Crucial Site for ...", Feminist Library (Facebook), June 14, 2025, (https://www.facebook.com/FeministLibrary/posts/1137010031787459). =2025, 村上潔訳, 「50 周年を迎えて」	arsvi.com: 立命館大学生存学研究所, (https://www.arsvi.com/2020/20250710mk.htm)	2025 年 7 月 10 日
59	村上潔	Feminist Library, n.d., "Community Policy", Feminist Library, (https://feministlibrary.co.uk/who-we-are/). =2025, 村上潔訳, 「コミュニティポリシー」	arsvi.com: 立命館大学生存学研究所, (https://www.arsvi.com/2020/20250706mk.htm)	2025 年 7 月 6 日
60	村上潔	Feminist Library, 2025, "Following the Supreme Court Judgment", Feminist Library (Facebook), May 1, 2025, (https://www.facebook.com/FeministLibrary/posts/1102569495231513). =2025, 村上潔訳, 「最高裁判決を受けての声明」	arsvi.com: 立命館大学生存学研究所, (https://www.arsvi.com/2020/20250620mk.htm)	2025 年 6 月 20 日
61	村上潔	「[リブ] と [ミツ] の「あいだ」を読み取る指標——田中美津著『何処にしようと、りぶりあん——田中美津表現集』(インパ	『図書新聞』3691(2025-06-14): 1	2025 年 6 月 14 日

		クト出版会)を読む」		
62	田中多賀子	「もうひとつの『変身』、(こうのとり)と(青い鳥)の物語」	松籟社『変身』とケアの現場』p.169-176	2026 年 3 月
63	田中多賀子	「日本の人工内耳導入の歴史」	全国要約筆記問題研究会 2025 年度大阪支部集会講演	2026 年 2 月
64	田中多賀子	『変身』読後雑感と私の変身談」	NPO 法人いゝえんぴつコミュニティズ会報 2025 年度夏号	2025 年 8 月
65	藤岡毅	安永健太さんが 残したものを風化させないために	文京区基幹相談センター主催 障害者虐待防止講演会	2026 年 2 月 7 日
66	藤岡毅 (共著)	吉川市 ALS 訴訟控訴審判決の意義	賃金と社会保障 2026 年 2 月上旬号	2026 年 2 月
67	藤岡毅	障害のある人の権利を守るとは ー裁判例、事件からー	福岡市 NPO 法人あい愛サポート主催 研修会	2026 年 1 月 18 日
68	藤岡毅 (共著)	65 歳以上の者の重度訪問介護の新規申請を拒否する支給決定基準決定基準のある自治体に 24 時間介護を認めさせた事例	賃金と社会保障 2025 年 12 月上旬号	2025 年 12 月
69	藤岡毅 (障 害年金法研 究会 運営 委員)	厚生労働省・日本年金機構との協議及び記者会見	厚生省・厚生省記者クラブ	2025 年 5 月 7 日、5 月 26 日、 10 月 17 日、2026 年 3 月 18 日
70	藤岡毅	弁護士としての実践報告	明治大学横田明美教授(行政法)ゼミ	2025 年 12 月 3 日
71	藤岡毅	障害者の人権	金沢大学法科大学院	2025 年 10 月 7 日
72	藤岡毅	障害年金制度の課題と展望	神奈川大学みなとみらいキャンパス・障害年金法研究会 10 周年記念シンポ	2025 年 10 月 4 日
73	藤岡毅	2025 年 7 月 17 日「天海訴訟」 最高裁差戻判決を受けて 学習会	参議院議員会館 101・公的介護要求者組合主催	2025 年 8 月 29 日
74	藤岡毅	「障害のある人の人権」 [人権教育研修]	埼玉県立和光特別支援学校	2025 年 8 月 28 日
75	藤岡毅	「障害者法律相談」基礎研修	和歌山県弁護士会	2025 年 7 月 18 日
76	藤岡毅	特別報告 基本合意の持つ力	障害者自立支援法違憲訴訟基本合意 15 年記念 フォーラム・厚生労働省・こども家庭庁共催・星稜 会館ホール	2025 年 6 月 2 日
77	藤岡毅	「見えない判定」に募る不信～障害年金不支給問題への緊急提言～	ぜんち共済 オンラインセミナー	2025 年 5 月 31 日
78	藤岡毅	障害福祉に関わる法律の基礎とその歴史的背景ー障害者自立支援 法違憲訴訟と基本合意の意義ー	福岡市 NPO 法人あい愛サポート主催 研修会	2025 年 4 月 20 日
79	藤岡毅	私の弁護士業務の実践から	流通経済大学法学部	2025 年 4 月 15 日・ 16 日
80	萩原浩史	地域移行支援ってなに？ 2000ー2026	令和 7 年度堺市相談支援ネット主催研修 地 域移行支援 今だから知ろう地域移行支援～ ことのはじまりは堺、堺の仲間と地域移行支 援をよりアップデートしよう！～、堺市立健 康福祉プラザ	2026 年 1 月 16 日
81	萩原浩史	地域活動支援センター（生活支援型）の成り立ちとこれから	令和 7 年度アテナ平和職員研修、アテナ平和	2025 年 11 月 8 日
82	萩原浩史	アセスメントってなに？——「ad sedere」の意味と理解：1996・ 2006ー2025	令和 7 年度中和地区 3 市 1 町障害者自立支援 協議会主任相談支援部会研修会、大和高田市 総合福祉会館	2025 年 10 月 3 日
83	萩原浩史	地域相談支援の制度史	令和 7 年度大阪府相談支援従事者専門コース 別研修「地域移行支援・地域定着支援コース （講義・演習）」、大阪府咲洲庁舎	2025 年 6 月 11 日
84	萩原浩史	地活ってなに？——「22+10+19」	令和 7 年度大阪市地域活動支援センター（生 活支援型）合同研修会、オンライン	2025 年 4 月 25 日
85	田邊健太郎	英米圏の音楽美学について——ピーター・キヴィを中心に	関西美学音楽学研究会 2025 年度第 1 回研究 会	2025 年 7 月 20 日
86	津田壮章	かわぐちかいじ原作マンガにおける専守防衛と戦死 ——「戦わない軍隊」が戦うための儀式表象に着目して	第 76 回 関西社会学会大会	2025 年 5 月

87	藤原良太	組織としての決定と相互行為の連関に対する社会システム理論を応用した分析 ――通常高校における「知的障害児・者」の進級・卒業をめぐる評価を事例として	日本教育社会学会第 77 回大会	2025 年 11 月 8 日
88	藤原良太	通常高校における習得が困難な「知的障害児・者」生徒が進級し、卒業に至るまでの評価の変化の過程	東北公益文科大学総合研究論集	2025 年 7 月 31 日
89	末田邦子	多職種連携における個人情報の取り扱いと個人の尊厳を守る視点	愛知県豊川保健所精神保健福祉市町村研修会	2025 年 10 月
90	奥山佳子	AI2X 2025-2026: Development of AI-Assisted Manga Translation Course for Humanities Majors	Intensive AI2X summer program (2025 年 6 月) and 10 additional online training sessions completed with the final showcase	2025 年 6 月 -2026 年 5 月
91	奥山佳子	Google AI Essentials Certificate	Certificate issued by Google after the completion of the online program, Google AI Essentials	2025 年 9 月-10 月
92	原昌平	コラム「鈍考急考」	京都保険医新聞 年 11 回	2025 年 4 月～2026 年 3 月
93	原昌平	家族の代わりをどうするか――生きていく安心から死後のことまで	NPO法人ライフプラン総研 学習会	2025 年 10 月 7 日 大阪市中央区
94	原昌平	精神科の権利擁護と入院者訪問支援事業	鹿児島県精神保健福祉士協会 総会時研修	2025 年 6 月 7 日 鹿児島市精神保健福祉交流センター
95	原昌平	法律と福祉をつなぐ～権利擁護と生活支援の実用ガイド	権利擁護・神戸心の相談センター 学習会	2025 年 4 月 12 日 神戸市中央区文化センター
96	濱井良文	博士学位弾みにさらなる研究――新潟の元教員・栗川さん	点字毎日 第 5240 号	2025 年 5 月 13 日
97	中村雅也	第 5 章 ワークアシスタントの配置で高校勤務――新潟県立新潟西高校社会科教諭・栗川治 (1959-)	『教師という希望――視覚障害教師の 50 年史』学文社, p80-98	2025 年
98	Ignacio Calderón-Almendros	Central University of Catalonia	Barcelona, Spain	December 10, 2025
99	Ignacio Calderón-Almendros	Universidad Siglo 21	Argentina, Online	November 4, 2025
100	長瀬修	「国際ブックガイド Carolyn S. Stevens 著『Disability in Japan』日本における障害」	『障害学研究』22, pp.327-330	2025 年 12 月
101	長瀬修	「優生保護法被害者の国連での初証言:障害者権利条約締約国会議サイドイベント」	『福祉労働』178, pp.144-145	2025 年 11 月
102	長瀬修	「東アジアにおける障害をめぐる対話と連携―障害学国際セミナーという実践」立命館大学土曜講座「生存学」って何?		2025 年 10 月 4 日
103	長瀬修	「障害者権利条約への道:1987 年イタリア提案とインクルージョンの国際的歩み」高野山会議 (イタリア)、招待講演。		2025 年 7 月 26 日
104	長瀬修	「第 9 章 障害者と多文化共生―一人ひとりへの合理的配慮」加賀美常美代編『多文化共生論【第 2 版】』明石書店。掲載章: (pp.218-243)。	加賀美常美代編『多文化共生論【第 2 版】』明石書店。掲載章: (pp.218-243)	2025 年 7 月
105	長瀬修	「旧優生保護法最高裁判決を受けた政府の行動計画:エイブリズムとの戦い」	『福祉労働』177, pp.162-163	2025 年 4 月
106	長瀬修	「第 11 章 障害者権利条約―日本に対する総括所見の実施」	『障害法の原理・体系・基本問題・関連領域―講座 障害法 第 1 巻』生活書院。掲載章: (pp216-236)	2025 年
107	長瀬修	「日本における障害者権利条約 (CRPD) の批准過程と実施状況」国際人権法をどう実践するか: 障害者権利条約 (CRPD) の場合―国内法の整備、日本&アイルランドの政府報告、日本の障害者雇用事例、招待講演		2025 年 4 月 12 日

108	細谷幸子	日本で暮らす外国人の為の保健医療におけるサポート	JAICOH（歯科保健医療国際協力協議会）秋季研修会 2025	2025 年 11 月 9 日
109	Sachiko Hosoya	In Search of a Muslim Chaplaincy in Japan: Some Case Studies	FAU（エアランゲン＝ニュルンベルク大学）哲学部・神学部（Philosophische Fakultät und Fachbereich Theologie）	2025 年 10 月 17 日
110	細谷幸子	外国人学校での健診～Team KENSHIN の活動から～	歯科保険医療国際協力協議会学術集会	2025 年 7 月 13 日
111	Kasai, Kenta, Sachiko Hosoya	In Search of a Muslim Chaplaincy in Japan: A Study Group Project	Muslim Chaplaincy. Practice, Research and Recognition	2025 年 6 月 26 日
112	山下 幸子	（研究ノート）重症心身障害児・者に対する福祉施策の展開過程	淑徳大学研究紀要（総合福祉学部・コミュニティ政策学部）	2026 年 3 月
113	山下 幸子	知的障害のある肢体不自由者の親を離れた暮らし—障害のある人と支援者とのシェアハウスでの暮らしについて	はげみ	2026 年 2 月
114	山下 幸子	社会福祉を学ぶ 50 の扉 障害者福祉	第 2 章 6「リハビリテーション」 pp.22-25、第 2 章 8「エンパワメント」 pp.30-33、第 2 章 10「障害とケア」 pp.38-41/法律文化社	2025 年 7 月
115	福島 幸宏	総論：デジタルアーカイブ学会のオーラルヒストリー	デジタルアーカイブ学会誌 10 巻 1 号 1-1	2026 年 2 月 1 日
116	福島 幸宏	柳与志夫氏インタビュー	デジタルアーカイブ学会誌 10 巻 1 号 6-9	2026 年 2 月 1 日
117	福島 幸宏	「デジタル公共文書」論の現在：知識情報基盤としての再構築に向けて—特集 情報公開法・公文書管理法と日本近現代史研究	日本史研究 = Journal of Japanese history / 日本史研究会 編 761 号 74-78	2026 年 1 月
118	福島 幸宏	デジタルアーカイブから考える地域資料	奈良県図書館協会地域資料研究会研修会	2025 年 8 月 27 日
119	福島 幸宏	これからの図書館像：地域の情報を集めきるために	愛知県公立図書館長協議会第 1 回研修会	2025 年 6 月 5 日
120	丹波 博紀	メンタルヘルスに関する難民・避難民のリテラシー向上を目的とした教育プログラム開発	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)	2025 年 4 月 - 2028 年 3 月
121	丹波 博紀	「最首悟旧蔵資料」寄贈経緯	水俣学研究 / 熊本学園大学水俣学研究センター	2026 年 3 月
122	丹波博紀	『『日常性』の自己変革』をめぐって —『ニューレフト運動と市民社会』を題材に	差別問題研究会	2026 年 1 月
123	丹波博紀	最首悟から見る安保闘争以後～東大全共闘 最首論集『玉砕する狂人といわれようと』に寄せて	差別問題研究会	2025 年 12 月
124	丹波博紀	祈りと学びの水俣巡礼 第 6 回 チッソ水俣工場正門	季刊 水俣支援 東京ニュース / 東京・水俣病を告発する会 / 2025 年 11 月 5 日 秋号	2025 年 11 月
125	丹波博紀	ワークショップ 東日本大震災から見えてきたこと (13) — 〈東北〉の「いたみ」をめぐって：今ここ、これまでとこれから	日本倫理学会第 76 回大会	2025 年 10 月
126	丹波博紀	祈りと学びの水俣巡礼 第 5 回 乙女塚	季刊 水俣支援 東京ニュース / 東京・水俣病を告発する会 / 2025 年 8 月 5 日 夏号	2025 年 8 月
127	丹波博紀	祈りと学びの水俣巡礼 第 4 回 水俣病センター相思社	季刊 水俣支援 東京ニュース / 東京・水俣病を告発する会 / 2025 年 5 月 5 日 春号	2025 年 8 月
128	丹波博紀	水俣病闘争と情念	現代倫理学会研究会	2025 年 6 月
129	丹波博紀	「滝沢克己賞」受賞あいさつに代えて 「わかろうとすること」	NPO 法人滝沢克己協会 2025 年度総会	2025 年 6 月
130	丹波博紀	18 歳からの学びを拓く	大学図書出版	2025 年 4 月
131	志水洋人	技術の日常化と社会的問い：医工連携系研究開発事例を通して	第 98 回日本社会学会大会	2025 年 11 月
132	志水洋人	AI・ロボティクス・デジタル技術分野における学際的研究デザインの可能性：社会学と工学の知の循環	第 33 回インテリジェント・システム・シンポジウム	2025 年 9 月
133	Hiroto Shimizu	Infrastructuring AI and Robotics: The Invisible Integration of Healthcare Technologies in Japan's Moonshot Program	Beyond the Binary: AI in Health & Medicine - Monash University Prato Workshop	2025 年 7 月
134	Hiroto Shimizu	Lost and Found in Translation: Reflexive Ethnography on ELSI Discourse and Practices in Japanese Science and Technology	AsSIST-UK Biennial Conference	2025 年 6 月
135	志水洋人	「インフラストラクチャー」の視点から探る人間と AI・ロボットの「共生」—新興 AI ロボティクス研究開発のエスノグラフィ—	第 39 回人工知能学会全国大会	2025 年 5 月

136	志水洋人	みえる身体、みえない機械：新興 AI ロボティクス研究開発のエスノグラフィー	第 51 回日本保健医療社会学会大会	2025 年 5 月
137	西川純司	戦後日本における結核医療の制度と実践——身体と環境の歴史に向けて	身体・環境史研究会 2025 年度第 5 回研究会 主催者：同志社大学人文科学研究所第 21 期部門研究第 7 研究	2026 年 2 月
138	西川純司	潜在的な病者をめぐる結核管理の歴史——健康と病気の狭間から日本の結核史を問い直す（書評：塩野麻子『病原菌と人間の近代史：日本における結核管理』）	図書新聞	2025 年 7 月
139	西川純司	〈病と戦後〉の歴史社会学：疾病と公害をめぐる神話を解体する	青弓社	2025 年 6 月
140	西川純司	自著を語る～MY FIRST BOOK～ 『窓の環境史——近代日本の公衆衛生からみる住まいと自然のポリティクス』	フォーラム現代社会学	2025 年 5 月
141	西川純司	戦後日本における結核予防法の成立とその運用：結核の適正医療をめぐる	日本科学史学会シンポジウム「日本結核史研究の現在：医療・公衆衛生の歴史的前提を捉え返す」 開催地：立命館大学	2025 年 5 月
142	太田智加子	令和 7 年度 第 77 回東北盲学校教育研究大会 宮城大会 第 1 分科会「外国語教育」研究発表・研究協議における指導助言者	令和 7 年度 第 77 回東北盲学校教育研究大会 宮城大会 開催地：宮城県立視覚支援学校（宮城県仙台市）	2025 年 11 月
143	大久保豪	医療計画におけるロジックモデル活用成果【第 2 報】19 府県担当者の主観的評価	第 84 回日本公衆衛生学会総会	2025 年 10 月
144	大久保豪	医療計画におけるロジックモデル活用成果【第 1 報】都道府県担当者の経験から	第 84 回日本公衆衛生学会総会	2025 年 10 月
145	Suguru Okubo	areing for families of people with mental disorders by home-visiting nurses for family recovery in Japan	WCP 2025	2025 年 10 月
146	大久保豪	認知症介護家族の抑うつリスク：1 年間の追跡調査	第 67 回日本老年社会学会	2025 年 6 月
147	大久保豪	地域に暮らす要ケア高齢者を支える家族介護者の睡眠と社会的ケア関連 QOL の関連：ASCOT-Carer 日本語版を用いて	第 67 回日本老年社会学会	2025 年 6 月
148	大久保豪	全国介護施設における介護助手導入の効果：業務状況と利用者・地域との関わりの変化	第 67 回日本老年社会学会	2025 年 6 月
149	Suguru Okubo	Community-based care provided by home-visiting nurses for families of individuals with mental illness, aimed at promoting family recovery in Japan	33th European Congress of Psychiatry	2025 年 4 月
150	Tomoyasu Noguchi	Analysis of factors influencing the continuation of inclusive education: A case study of Ozora Elementary School in Japan before and after the COVID-19 pandemic	London International Conference on Inclusive Education (LICIE) 2025	2025 年 7 月
151	利光恵子	講演「優生思想と私たちの社会—優生保護法裁判が問いかけるもの」	大阪府人権総合講座	2026 年 1 月 14 日
152	Ikuko Kashiwazaki	An Observational and Interview Study on Nurse-Physician Collaboration in Detecting and Discussing Physical Changes of Residents in Japanese Long-Term Care Facilities	29th EAFONS 2026	2026 年 2 月
153	柏崎郁子	「ケア」という語の多義性と看護の視点	第 21 回東京女子医科大学看護学会学術集会シンポジウム	2025 年 10 月
154	柏崎郁子	第 10 回「生存学奨励賞」授賞講演 『〈延命〉の倫理—医療と看護における』（2024 年、晃洋書房）	立命館生存学研究	2025 年 8 月
155	柏崎郁子	書評：加藤真三著『〈いのち〉をケアする医療——患者と医療者の新しい関係のあり方』（春秋社、2025 年）：「全人的医療」の理想のかたち——その陥穽の果てにありうる希望	週刊読書人	2025 年 7 月
156	柏崎郁子	「科学」と「人間的な領域」の往復：医学文献における〈延命〉に着目して	日本科学史学会 2025 年度第 72 回年会 一般講演	2025 年 5 月
157	柏崎郁子	コメント 【シンポジウム：ヒトとモノからみる公衆衛生史】	生物学史研究	2025 年 5 月
158	貞岡美伸	難治性蕁麻疹における心身医学の歴史——皮膚科の成人女性の症例から、(1990 年以前の史料)	日本皮膚科心身医学会、第 16 回抄録集	2026 年 3 月
159	貞岡美伸	難治性蕁麻疹の心身医学的アプローチの歴史——成人女性に焦点を当てる、(1990 年以降の史料)	日本医史学雑誌	2025 年 9 月

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月

1	末田邦子	日本精神保健福祉学会	学術賞	戦前日本の精神衛生相談の成立の関する研究	2025 年 6 月
2	Ignacio Calderón-Almendros	Malaga Autism Foundation	Award for Excellence for Entities that stand out for their support of autism in the province of Malaga	Educational Research on Inclusive Education	November 28, 2025
3	丹波博紀	NPO 法人滝沢克己協会	滝沢克己賞	論文「わからなさへの定位」(『滝沢克己の現在』新教出版社 2024 年) に対する受賞。	2025 年 6 月

7. 科学研究費助成事業（科研費）						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	美馬達哉	尊厳学の確立：尊厳概念に基づく社会統合の学際的パラダイムの構築に向けて	学術変革領域研究(A)	2023 年 4 月	2028 年 3 月	分担
2	美馬達哉	詐病を哲学する：医療における真理の体制とその構築	挑戦的研究(萌芽)	2025 年 6 月	2027 年 3 月	代表
3	美馬達哉	デジタル・アーカイブを活用した総合的な優生政策史研究	基盤研究(S)	2025 年 4 月	2030 年 3 月	分担
4	美馬達哉	傷／傷跡としての戦後日本——ポスト冷戦期における生政治と文学	挑戦的研究(萌芽)	2024 年 6 月	2027 年 3 月	分担
5	美馬達哉	非侵襲的静磁場刺激の創生	基盤研究(B)	2024 年 4 月	2028 年 3 月	分担
6	美馬達哉	中枢—末梢チューニングによる感覚障害のオシロセラピューティクス	挑戦的研究(萌芽)	2023 年 6 月	2026 年 3 月	代表
7	美馬達哉	「ヘルスケア政策史研究」領域創成の基盤構築とアーカイブ整備—PPI の実践と共に	挑戦的研究(開拓)	2023 年 6 月	2026 年 3 月	分担
8	美馬達哉	クローズドループ刺激による非侵襲的 Deep Brain リハビリテーションの創生	基盤研究(A)	2023 年 4 月	2027 年 3 月	代表
9	美馬達哉	神経筋メタ・ネットワーク構造に基づく歩行介入戦略の開発	基盤研究(B)	2023 年 4 月	2027 年 3 月	分担
10	美馬達哉	静磁場刺激を在宅ニューロリハに応用するために必要な基礎データの構築	基盤研究(B)	2022 年 4 月	2027 年 3 月	分担
11	大谷いづみ	デジタル・アーカイブを活用した総合的な優生政策史研究	基盤研究 (S)	2025 年 4 月	2030 年 3 月	分担
12	後藤基行	デジタル・アーカイブを活用した総合的な優生政策史研究	基盤研究(S)	2025 年 4 月	2030 年 3 月	分担
13	後藤基行	詐病を哲学する：医療における真理の体制とその構築	挑戦的研究(萌芽)	2025 年 6 月	2027 年 3 月	分担
14	後藤基行	「ヘルスケア政策史研究」領域創成の基盤構築とアーカイブ整備—PPI の実践と共に	挑戦的研究(開拓)	2023 年 6 月	2026 年 3 月	分担
15	川端美季	帝国日本植民地統治下の公衆浴場運動における清潔規範思想	挑戦的研究(萌芽)	2024 年 6 月	2027 年 3 月	代表
16	川端美季	「ヘルスケア政策史研究」領域創成の基盤構築とアーカイブ整備—PPI の実践と共に	挑戦的研究(開拓)	2023 年 6 月	2026 年 3 月	分担
17	川端美季	日豪の薬物依存治療と薬物政策に関する比較研究研究課題	国際共同研究加速基金(海外連携研究)	2023 年 9 月	2027 年 3 月	分担
18	川端美季	パンデミックにおける人間と非人間：生政治と脱人間中心主義の視点から	学術変革領域研究(B)	2023 年 4 月	2026 年 3 月	分担
19	伊東香純	空き家を利活用した都市空間の自主管理・運営—スクウォット・DIY 研究の文脈から	基盤研究(B)	2025 年 4 月	2028 年 3 月	分担
20	中根成寿	障害福祉データベースを活用した障害者総合支援法給付額予測モデルの開発	基盤研究(C)	2024 年 4 月	2028 年 3 月	研究代表者
21	松原洋子	デジタル・アーカイブを活用した総合的な優生政策史研究	基盤研究(S)	2025 年 4 月	2030 年 3 月	代表
22	松原洋子	生命操作の倫理：生と死の自己決定をめぐって	基盤研究(B)	2024 年 4 月	2026 年 3 月	分担
23	松原洋子	ゲノム編集やiPS 細胞等の先端医療技術や尊厳死等の問題を尊厳の毀損の観点から	学術変革領域研究(A)	2023 年 4 月	2028 年 3 月	分担

		ら分析				
24	松原洋子	「ヘルスケア政策史研究」領域創成の基盤構築とアーカイブズ整備－PPI の実践と共に	挑戦的研究(開拓)	2023 年 6 月	2026 年 3 月	分担
25	富永京子	空き家を利活用した都市空間の自主管理・運営ーースクウォット・DIY 研究の文脈から	基盤研究(B)	2025 年 4 月	2028 年 3 月	分担
26	富永京子	Critical Tourism Studies-Japan: Recentering politics and ethics in a transforming tourism landscape	基盤研究(B)	2025 年 4 月	2029 年 3 月	分担
27	富永京子	幸福感と互酬性に基づく社会運動の理論化：国際共同研究による概念構築	国際共同研究加速基金(国際共同研究強化)	2025 年	2025 年	代表
28	富永京子	ミユニシパリズムと市民・住民のエンパワメントに関する映像社会学的研究	基盤研究(B)	2024 年 4 月	2027 年 3 月	分担
29	小川さやか	インフォーマリティと新しい社会契約：アジアのメガ都市を事例に	基盤研究(A)	2025 年 4 月	2030 年 3 月	分担
30	小川さやか	ポスト・ヒューマン時代の〈人間経済〉：アジア、アフリカ、オセアニアからの再構築	基盤研究(A)	2024 年 4 月	2029 年 3 月	分担
31	小川さやか	シリアスゲームを用いたマルチ モーダル・エスノグラフィの人類学的研究 研究課題	挑戦的研究(萌芽)	2024 年 6 月	2027 年 3 月	分担
32	宮脇正晴	デジタル関連政策と連携可能な民事立法論の研究	基盤研究(C)	2025 年 4 月	2029 年 3 月	分担
33	宮脇正晴	最高裁判所・高等裁判所における隠れた違憲審査の発掘ー法分野横断的な司法行動研究ー	基盤研究(C)	2023 年 4 月	2028 年 3 月	分担
34	塩見康博	アクティビティシミュレーションによる最適な都市内道路網の交通機能ダウンサイジング	基盤研究(B)	2025 年 4 月	2028 年 3 月	分担
35	塩見康博	貨物車両の高度化に対応するマルチスケールな道路計画論の新展開	基盤研究(B)	2025 年 4 月	2029 年 3 月	代表
36	後藤智	デザイン思考の促進メカニズムおよびデザイン戦略としてのインクルージョンの評価	基盤研究(B)	2024 年 4 月	2026 年 3 月	代表
37	後藤智	生理学的指標に基づく企業のデザイン職／非デザイン職におけるデザイン態度の評価	挑戦的研究(萌芽)	2022 年 6 月	2026 年 3 月	分担
38	秋葉峻介	臨床倫理システムの理論的総仕上げと超高齢社会における高齢者のよい人生への貢献（代表：清水哲郎）	基盤研究(B)	2022 年 4 月	2026 年 3 月	分担
39	須坂洋子	地域で暮らす人々に対応する看護職のための、「遺伝看護」教育プログラムの開発	基盤研究(C)	2023 年 4 月	2027 年 3 月	代表
40	瀬山紀子	デジタル・アーカイブを活用した総合的な優生政策史研究	基盤研究(S)	2025 年 4 月	2030 年 3 月	分担
41	瀬山紀子	ジェンダー化を伴う公務の非正規化の課題の実証的研究と解決に向けた日韓調査研究	基盤研究 (C)	2025 年 4 月	2028 年 3 月	代表
42	瀬山紀子	公務非正規専門職女性の多様な困難性の実証と問題構造の解明	基盤研究 (C)	2025 年 4 月	2028 年 3 月	分担
43	瀬山紀子	障害女性をめぐる差別構造および差別的状況についての横断的解明	基盤研究 (C)	2022 年 4 月	2026 年 3 月	分担
44	瀬山紀子	公務非正規女性が支える専門職の持続可能性についての実証的研究	基盤研究 (C)	2022 年 4 月	2025 年 3 月	分担
45	長谷川唯	障害や病を有する当事者の価値規範に基づく医療同意と意思決定支援に関する研究	基盤研究(C)	2025 年 4 月	2027 年 3 月	代表
46	末田邦子	デジタルアーカイブを活用した総合的な優生政策史研究	基盤 (S)	2025 年 4 月	2030 年 3 月	分担
47	末田邦子	近代日本における精神病患者社会事業の理念と実態把握に関する研究	基盤研究(C)	2023 年 4 月	2027 年 3 月	分担

48	栗川治	「能力の社会モデル」に基づく障害教員の「異在労働」評価システムの研究	2025 年度特別研究員奨励賞	2025 年度 4 月	2028 年 3 月	代表
49	柏崎郁子	急性期病院の看護管理者への介入によるノーマリフトケア実装モデルの構築	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)	2025 年 4 月	2028 年 3 月	分担

8. 科研費を除くすべての外部資金（政府系、民間財団、民間企業との共同研究費等）						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	美馬達哉	多角的脳コネクトーム解析に基づくてんかん病態の解明と新規ネットワークモデレーション法の開発	脳神経科学統合プログラム(個別重点研究課題)	2025 年 4 月	2030 年 3 月	分担
2	美馬達哉	ウェアラブル在宅脳波計を用いた認知症感謝及びその予備軍における意識・認知変動の定量化法の研究開発	JST 経済安全保障重要技術育成プログラム	2025 年 4 月	2030 年 3 月	分担
3	美馬達哉	認知症克服に向けた脳のレジリエンスを支えるリザーブ機能とその増強法の開発研究	ムーンショット型研究開発事業	2024 年 4 月	2030 年 3 月	分担
4	大谷いづみ	当事者視点による生命倫理教育・医療倫理教育に関する研究	(公財) 生存科学研究所研究助成	2023 年 4 月	2026 年 3 月	代表
5	松原洋子	医療・ヘルスケア領域における ELSI の歴史的分析和アーカイブズ構築	JST-TRISTEX	2022 年 10 月	2026 年 3 月	分担
6	サトウタツヤ	人文社会科学の復興知に基づく標葉地域の循環型共同教育の実践		2021 年 6 月	2026 年 3 月	代表
7	望月茂徳	デジタルメディア技術を活用した共創型体験デザインの研究 ―障害の有無を超えたインクルーシブな共創体験の創出に向けて―	ひと・健康・未来研究財団研究助成	2025 年 9 月	2026 年 8 月	代表
8	秋葉峻介	変身 (metamorphose/metamorphosis) としての老いと人生の最終段階	公益財団法人生存科学研究所・令和 7 年度助成研究事業	2025 年 4 月	2026 年 3 月	代表
9	※吉村タリエイブル・パフォーマン ス 集 団「 ガ ラ (柄)」	障害インクルーシブな交流事業	京都生協社会貢献活動助成	2025 年 4 月	2026 年 3 月	事務局
10	Ignacio Calderón-Almendros	Scientific advice for the design of a participatory workshop, methodological facilitation and report writing	Ministry of Education, Spain	April 01, 2026	December 31, 2026	Principal Investigator
11	Ignacio Calderón-Almendros	Emerging narratives for building inclusive schools	Ministry of Science, Spain	September 1, 2023	August 31, 2027	Co-Principal Investigator

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録（特許）番号	国
1	立命太郎	特許（国内）	本人単独	筆頭発明者	*****	*****	*****	日本